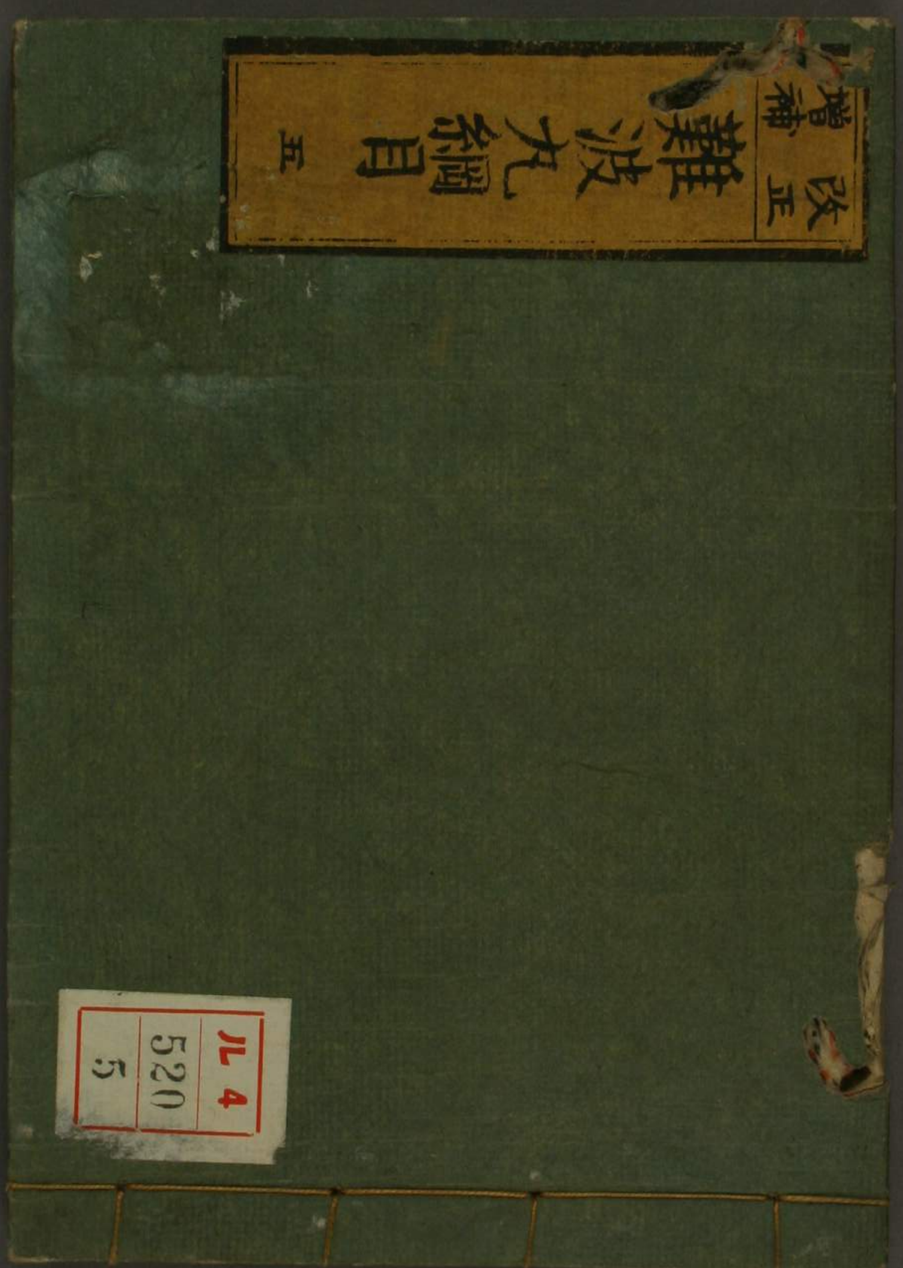
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



JL 4
520
5

門九号4
120

日本国花万葉集 巻之上

住吉社 …… 五箇所 …… 一ノ七
築港浪速門 …… 一ノ七
岸野より此下名古記数ヶ所并ニ有 …… 一ノ七
長安寺 平野院 …… 一ノ七
今宮 …… 一ノ七
三十歳ノ神 …… 一ノ七
惠光寺 …… 一ノ七
光源寺 …… 一ノ七
融通大念仏宗 …… 一ノ七
総社 …… 一ノ七
澤寺 …… 一ノ七
熊野権現 …… 一ノ七
八幡宮 …… 一ノ七
住吉郡 …… 一ノ七
住吉社 …… 一ノ七
築港浪速門 …… 一ノ七

帝国図書館蔵書

一心寺
歓通大念仏寺
安陪社 并 野
松虫塚 わかれて 弘名所古蹟 并 言
菜畑山 并 名木
遍明院
玉生稲荷
生玉社

西成郡 二十七ノ内 一二ノ丁裏ヨリ二八ノ七ニ至

高津社
廣田宮 并 嘉
并 稲荷之小祠
神明宮
稲荷社 こちら町
住吉宮
天満 東照権現宮

今宮社
鎮日天神 神体
月天
三津ノ八幡宮
祇園社 三ノ丁裏
新清水 靈

菅原 天神
天満天神
菅原

白髪明神宮
海会寺
本覚寺
龍淵庵
大融寺
崇禅寺
三宝寺

難波御津 坊 東ノ
天満御堂

川辺郡 壮七ノ四十七ノ一ニ至

奥村明神
天王宮
若宮

小野ノ天神
荒原住吉
大蓮寺
三津寺 観音
雪陰院
薬師堂
竹林寺
法楽寺 釈迦一尊
大融寺
毋屋寺 并 穂田
津村御坊 西ノ
素盞嗚 拾四
平野明神
吉俊公宮
法会山四天王寺

多田院
大光寺
仲山ゐる
蓼沼ゐる
蓮花ゐる　小屋ゑ
武庫郡　四十七ヶ村ニ成ル
廣田社
琴浦ノ浜
慶尾山金龍ゐる
慶尾山如意輪
住蓮寺
勝地堂
武庫山　七ヶ所ニ成ル
兎原郡　九十九ヶ村ニ成ル
菟原住吉社
芦屋里　七ヶ所ニ成ル
慶那山
清光ゐる
清流寺
蓮華寺
蓼沼ゐる
小屋ゑ
西宮
御影ノ浜
海清ゐる
鷲林ゐる
延平寺
観音堂
慶那山

生田社
縄手天神
福海ゐる
経塚来迎ゐる
勝福寺
川原石之御山　七十ヶ村ニ成ル
長田社
須磨寺
福祥寺
明要ゐる
福厳寺
温泉　一名不老泉又名有馬湯
投扇坊
三福明神
念仏寺
六地蔵
松波寺
紫雲院
廉石ゐる
海山桂祝
薬師堂
極楽ゐる
廉石明神
奥院
金剛ゐる
老富山
都婆多ゐる
善福ゐる
天神
紫雲院
松茸院
永沢ゐる

永坂 元ノ八下ニ名不明ノ社アリ又指差ヲ退カ
ヘニ来ル

▲住吉郡神社佛閣名所

摂津ノ国住吉郡

社領弐千百石六斗

津守村ヨリ南ノ方ヘ浦

南ノ方ヘ浦ニ

住吉社

社数

別當

一末社 四座

底筒男 中筒男 表筒男 神功皇后

日本紀曰伊弉諾尊被禊祓之時所生之神也
掲焉而被祓給而後所生神号云底筒男命
中筒男命表筒男命三神是也

上図以生神号云底筒男命中筒男命又
上図以生神号云表筒男命

住吉之六神

一末社 四座

日本紀 神功皇后摂政前紀曰足仲彦天皇之時
筒男 底筒男 中筒男 表筒男 神功皇后

底筒男 中筒男 表筒男三神ハ海ニ在テ
和魂ヲ以テ是ヲ祭ル神数次第ニ座ス

住吉明神ハ表筒男 中筒男 底筒男 神功皇后
ノ四座ニ御坐ス

清ノ上ノ郡

八十二ノ八十八ノ公ル

上宮天神 社内ニ在ル

金龍寺

八十六ノ八十八ノ公ル

惣持寺

八十八ノ九十三ノ公ル

西ノ浦ノ郡

呉服之天神 綾服

久安寺 入江山

九十二ノ九十六ノ公ル

勝尾寺

凡ノ名ハ山ノ名ニ依名不

勢ノ郡

祈宮

並ニ峯ノ山

九十五ノ九十八ノ公ル

笑明神

月峯ノ石橋

ノ名不古ク

當國所部ノ社名所指差退考 九十九ノ百五

年中行事

九十五ノ九十八ノ公ル

彩波ノ寺付垂不付

九十九ノ終ノ二ノ公ル

祓ノ宗吉付

宣云云真住吉云云国史国統篇
云住吉名云住吉

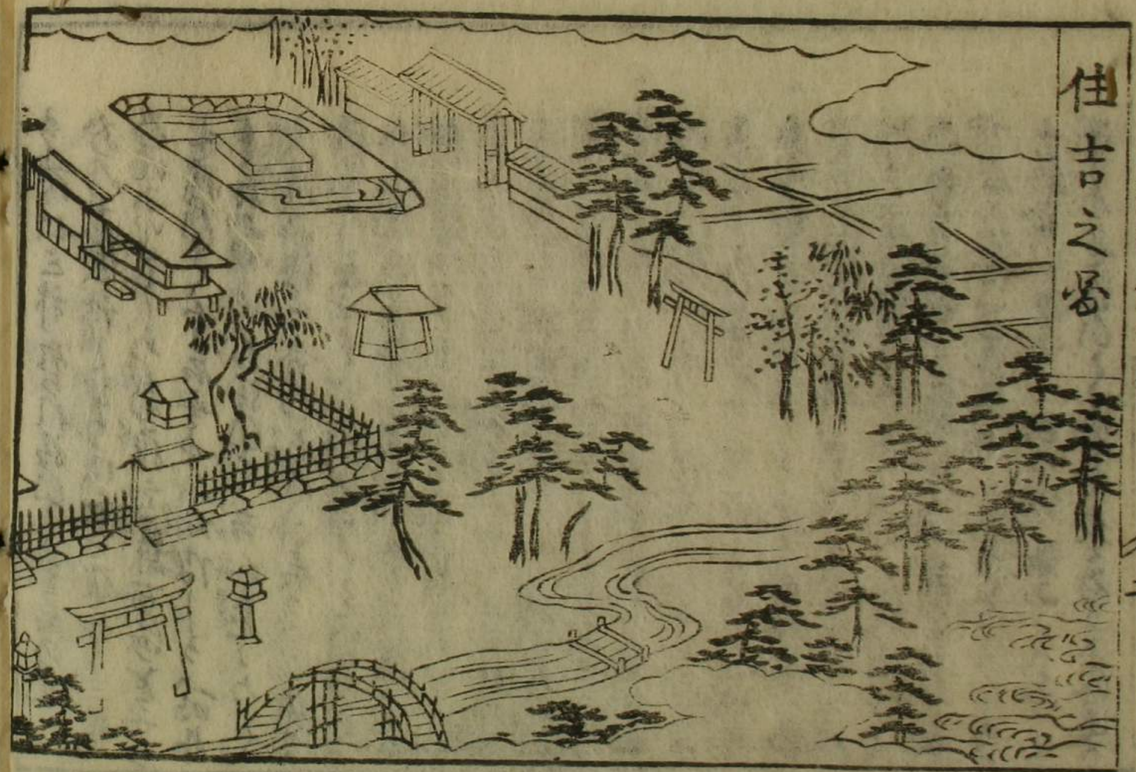
一世傳云門徒宣曰　吾正見神　以云云一
名神　吾元神徳沢之及遠孫　九ノ九
賀恵沢忠孝為云云　吾元云神物
以云事業為云云之物　云云豊葦原瑞穂国
或云面社四面明神　云云
答一　天照大神
答二　底筒中筒
答三　底筒男命　答一　天照大神
答二　底筒男命　神功皇后

一此両神之事紀延喜式神名帳
云云これの今文ある事
柴落ちをそに依て
あり一つのして云々　鏡ども云々
目向国ふかた乃橘乃接の原のうりて此被
一つの一時につまく　明れ底ゟり生ある神
三神もうく　ゟり生ある神
と底筒男命と号　ゟり生ある神
と中筒男命と号　ゟり生ある神
と表筒男命と号　ゟり生ある神
云云これの今文ある事
柴落ちをそに依て
あり一つのして云々　鏡ども云々
目向国ふかた乃橘乃接の原のうりて此被
一つの一時につまく　明れ底ゟり生ある神
三神もうく　ゟり生ある神
と底筒男命と号　ゟり生ある神
と中筒男命と号　ゟり生ある神
と表筒男命と号　ゟり生ある神
云云これの今文ある事
柴落ちをそに依て
あり一つのして云々　鏡ども云々
目向国ふかた乃橘乃接の原のうりて此被
一つの一時につまく　明れ底ゟり生ある神
三神もうく　ゟり生ある神
と底筒男命と号　ゟり生ある神
と中筒男命と号　ゟり生ある神
と表筒男命と号　ゟり生ある神

ゟ神功三神　現れ給ふ事紀
おのち後神とあり
乃此おいてこれ　彰
皇后おゆく皇后云々
大津乃浜中会乃
住吉乃　私と云々との
今乃表ばと云々
座云云つくしと
一乃小戸のあわ
一のく　拾列の
ゟりとの給ひし処
住吉と名つくこと
乃表人神こうくも
るゟりくと
らを　ゟりくまく
りくく　人口にる
いくくそんぜ
乃此表ふ
やうすれ
ゟやゆくらん
ゟどうを

神功三神　現れ給ふ事紀
おのち後神とあり
乃此おいてこれ　彰
皇后おゆく皇后云々
大津乃浜中会乃
住吉乃　私と云々との
今乃表ばと云々
座云云つくしと
一乃小戸のあわ
一のく　拾列の
ゟりとの給ひし処
住吉と名つくこと
乃表人神こうくも
るゟりくと
らを　ゟりくまく
りくく　人口にる
いくくそんぜ
乃此表ふ
やうすれ
ゟやゆくらん
ゟどうを

住吉之宮



あらさるまつりしも又天安年中に文徳
天皇当社へ行幸ありて業平朝
臣仕へまつらく
我見ても久しくなりぬ住吉の岸の姫松いく世へぬらん
御神御返しありく
むつまじと君は白浪瑞籬の久しき世よりいはひそめてき
又この神成実語乃あらさにしますくす
れ古にのへまつされいト神主座乃所ふ
西の海原の波のよりあらはれ出し住吉の神

神境

▲摂社（セツシャ）

▲波止土（ハツヒトノ）社 住吉の後 六月晦日 磯の前（イソノコセン） 津守氏之祖神之
宝之市 九月十三日 社前において市をなす
是外年中の神事あげがたし

岸姫（キシヒメ）松

住吉乃行くより居ぬこえ久かしき所なり
岸松 姫松 古来名にあり 右大臣
夕ぐれは後とふ人もなき住吉の岸の姫松浜の白波

忘水（ワスレミヅ）

　　　　　　　　　　　丈本
君の名や浅沢水の忘れじと誓ひし住吉の松 雅経

住吉の浅沢小野のかきつばた衣にすりて着る日しらずも

詞花 公経

名越岸（ナゴシノキシ）

住吉の名越の岸に出る方は秋そ吹さし 名寄 好忠
千首 定家

粉浜（コハマ）

住吉の浜の常に見えしかけし岸の名越の岸 丈木
好嗣

浅香浦（アサカノウラ）

住吉の浅香の浦の松枝に よるよるぞ... さん 家隆

出見浜（イデミノハマ）

秋の夜の月の光も住吉の出見の浜の松風ぞ吹

那古乃浜（ナゴノハマ）

名古の海住吉乃浜の波出 新続古今
一条摂政
住吉のなごの浜の貝拾ひつつ あられ 御製
かつらき山 後鳥羽院

那古乃浦江（ナゴノウラエ）

なごの海や浜の浪を引く見ればなごの浜辺にさくら

那古乃海（ナゴノカイ）

浜の松ある 住よしの那古の浦
貝 三位 家

新古今
那古の海の霞の間より見れば入日の浪がきよらかなる白波
夫木
ひろふてみてはき浜の住吉の那古の浜の秋の月 丹後
かぞへしき よみ人合

粉浜（コハマ）

夕立の又百首
君が代と長久なる住の浦のなにはの浜の万世までと共に千尋の
かかるとき 浅沢石 みりぞ
家隆
浅沢沼 小野の千鳥 寂蓮

細江　ふち
但馬州　但馬州細江湯あり
濱沢小野

但馬州濱沢あみの浦くまあり男猪女猪あり
又湯を三日但吉乃極早めぐれども此浦
乃雌ら(メバラ)をみるてる(ママ)ものあり　此日久晴のあさ
て川乃辺り辺遍(ママ)くろりさをうつべ(ママ)
のりく(ママ)採びてかへる(ママ)　磯菜(イソナ)
是を己の国牛の肉とともにあつものとす
庵人の船(ママ)濱沢小野ハ但馬州
但吉乃濱沢小野ハ但馬州
宿名　杜(モリ)あり　藤(フジ)　茗荷(ミョウガ)あり
是をもれ(ママ)あり　源(ミナモト)義朝(ヨシトモ)
濱澤沼

濱沢小野ハ但馬州　根井(ネイ)　杜(モリ)あり　弟光(オトミツ)
義朝(ヨシトモ)ハ　若菜(ワカナ)
宿名(ヤドメ)　みそ(ママ)
ここ(ママ)　沢(サワ)　此(コ)　菜(ナ)あり
古乃越江(タカノコエ)

古乃越江ハ但馬州濱沢と播磨(ハリマ)
播州(バンシウ)との境(サカヒ)
万代(ヨロヅヨ)と名(ナ)が(ガ)ちりと
此(コ)河(カハ)ハ　古乃(タカノ)越(コエ)

そこ(ママ)海(ママ)れ(ママ)ろ(ママ)　此(コ)ハ　神(カミ)　社(モリ)あり　小(ヲ)浜(ハマ)
あり(ママ)と名高(ナダカ)き
也(ヤ)　古乃(タカノ)松(マツ)　生(オヒ)
播州(バンシウ)
但馬州(タヂマノクニ)　生野(イクノ)　銀山(ギンザン)
遠里小野(トホサトヲノ)

此(コ)ハ　但馬州(タヂマノクニ)　生野(イクノ)　銀山(ギンザン)　ハ　悪(アク)
但吉(タヂマ)ともいひ(ママ)　池(イケ)
此(コ)ハ　古(フル)　池(イケ)　ハ　神(カミ)　乃(ノ)　灯明(トウミヤウ)　料(リヤウ)　池(イケ)
ハ　武里(ムサト)　より(ママ)　あり(ママ)
武里小野沢(ムサトヲノサハ)
友(トモ)　猪(シヽ)　や(ママ)　沢(サハ)　此(コ)　者(モノ)　を(ママ)　あり(ママ)
濱沢(ハマサハ)
出石乃池(イヅシノイケ)
濱(ハマ)乃酒(ノサケ)

かう(ママ)濱沢乃酒(ハマサハノサケ)
但馬州(タヂマノクニ)　破籠(ワリコ)　毎人(ヒトゴト)　ニ(ママ)　ツヽ(ママ)

住吉乃松原

遥見乍住吉乃松原

住吉乃浜

住吉乃岸ニ毛有 山吹 住乃江乃岸ニ毛有 菅 笠縫 浜松 卯花 蔦 浜木綿 芦 岸乃松原 清幸 志賀乃浦 山片男 岸田 岸乃埴生 宮里 家毛 岸乃上乃小笹 稲積 神社 古ゟ有 菰 蜷腸 浦廻 鶴 住吉乃浦

家裏乃松原 清幸 志賀乃浦 古ゟ有 菰 蜷腸 浦廻 鶴 住吉乃里

住吉乃里

住吉乃岸ニ毛有 山吹 住乃江乃岸ニ毛有 菅 笠縫 浜松 卯花 蔦 浜木綿 芦 岸乃松原 清幸 志賀乃浦 山片男 岸田 岸乃埴生 宮里 家毛 岸乃上乃小笹 稲積 神社 古ゟ有 菰 蜷腸 浦廻 鶴 住吉乃浦

住吉乃岸ニ毛有 山吹 住乃江乃岸ニ毛有 菅 笠縫 浜松 卯花 蔦 浜木綿 芦 岸乃松原 清幸 志賀乃浦 山片男 岸田 岸乃埴生 宮里 家毛 岸乃上乃小笹 稲積 神社 古ゟ有 菰 蜷腸 浦廻 鶴 住吉乃浦

住吉乃岸ニ毛有 山吹 住乃江乃岸ニ毛有 菅 笠縫 浜松 卯花 蔦 浜木綿 芦 岸乃松原 清幸 志賀乃浦 山片男 岸田 岸乃埴生 宮里 家毛 岸乃上乃小笹 稲積 神社 古ゟ有 菰 蜷腸 浦廻 鶴 住吉乃浦

住吉乃岸ニ毛有 山吹 住乃江乃岸ニ毛有 菅 笠縫 浜松 卯花 蔦 浜木綿 芦 岸乃松原 清幸 志賀乃浦 山片男 岸田 岸乃埴生 宮里 家毛 岸乃上乃小笹 稲積 神社 古ゟ有 菰 蜷腸 浦廻 鶴 住吉乃浦

新羅宮（シンラノミヤ）　住吉の浜を田蓑嶋といふ　此所にかすかなる宮あり　むかしの新羅の御社の跡なりとぞ
角の松原の西　所にはなれて山にありといふところの
この宮りしろぞいづれの神　勤請所の人はこゝにまうづ
と云ず　左に神の宮の事を遣とす　さぞ向いは只
当社の神の新羅の神なりとぞ

角松原（スミノマツバラ）　角松原
小野のかたに霰松原の住吉の浦吹風に散ぬらん　西行
吾妹子に猪名の笹原いかに見むむ角の松原を名のみかは　連玉
一説に云　角松原　太田の前と記すなり
ことに此の松原は武庫郡にありといふ
なりといへりしたりとも聞る　住吉五里の松原なり

猪名野郡墨俣門（ヰナノゴホリスミヤカド）
とも云　今民家の中　住吉の四季の隣に
在るす　あり　家の中を呼ぶ町　新家あるべし

津守（ツモリ）　薬師堂　幷
これ住吉の浦の辺の地を書なり　あり
又一社又破の浦にあり　是は津守の家の
祖といふ　神は津守氏の祖神なり　住吉
乃社務の家なり　所の人の名なり　前日
後三条院の御幸ありし時　帝
御歌をたまはりし所の家を津守の家とす
...とし　住吉のしるし　新羅の浦にありし
御乃湊の住吉名所のうた　津守国基

津守浦（ツモリノウラ）

続後撰　津守国平
沖つ風ふけゐの浦にたつ浪の名残にさへや我はしづまむ
住吉名所の松原を見る　又云
住吉の浦は波さへ月の影もさやけき　又云
波のうへにたてる釣舟の月の影
風雅集　後云

住吉浜（スミヨシノハマ）
秋はなほ住吉の浜の浦風に千鳥鳴くなり
秋萩村にあり　説あり

常陸帯（ヒタチオビ）
世に八千の神々わたらせ給ふとぞ
遠井村に至る　前あり

味右門池（ミウモンイケ）
住吉の辺の池なり

堺（サカイ）
堺の町は住吉の南にあり　堺乃町は大阪の南
乃内にして大和川の南にあり　泉州乃国
たり　故に境といふ　摂津と和泉の国の境なり
やのまへ住吉乃浦の辺の社なり

住吉乃岸（スミヨシノキシ）
住吉の岸の松風いつも吹く
此社の南にあり

結き社名

住吉乃社
住吉の岸に松生ふる　住吉の浦に住むらん　松秋　依羅とも云
ここまでは池と住吉の味右門池と云なり

又六

▲同郡平野庄ち社名所

王舎山長寳寺 天台宗三十三所ゟ番外

開山ハ坂上将軍田村丸の娘に禮式

帝乃御寵姫也しかうして三十三天皇

髙御門院後乙ヲ御出家の後ニ入る慈心

大姉と申しをり寺ハ桓武帝乃

母后ハ皇后藤原乙牟漏と申す

良継公乃女也光仁天皇の后母后皇

太后藤原旅子と申百川の女也

三代乃天子皆桓武天皇乃后なり

同帝天母乃皇后藤原の氏に

田村ゟ堂 相つき寺乃本縁ハ田村丸乃娘寄廣

野以後絶えたるニ此乃御経蔵の地を

伍上家由七寺坂ノ子孫多く住ゝて平

野郷と称すなり 毎年五月十一

日七番ゟ着御式ニて是を云ふ

熊野権現

提頭

薬師寺 天照太神宮 阿弥陀院 正林庵

八幡大菩薩 長月大明神 浄土宗 教念院 光林庵

慶長ニ年二月日 来迎院

坐摩社

牛頭天王 本同社内 平野氏作

全興寺

不動尊 田村丸守本尊所

清花表熊野三所乃本地ハ後醍醐天皇

名残之平野氏是居入り乃時長寳寺ゟ郷乃堂居

とし今ハ天乃時掛られし額あり

大源堂 多寳塔 亀谷所近寺しとく

社僧 別当 東坊

西光院 大門坊 池坊 中坊 宝寿院 弥宮寺 前坊 北坊 西坊 乾坊 南坊

笠掛松 延喜の比熊野権現に属す

熊野権現ゟ乳納の時此笠を掛松なり

全興寺

野堂町 本尊薬師 聖徳太子作 秘仏

光源寺 浄土宗 北月二ノ口町 今徳院殿様御位牌を

三十歩大明神 野堂町 住吉ノ末社 此社ニ古く鎮座

融通大念仏寺 平野二ノ口

大源山 諸仏護念院と号 大念仏宗 本山

是元亨元年に成る 縁起を出せり

恵光寺御堂 泥堂町 東本願寺門徒 但西本願寺ニ下

安藤治右衛門 墓所 元和元年五月七日討死

平野庄ハ大坂御陣の時此所にて合戦

大坂両陣の時味方すくなく討死也

舎乃役所に而あり右の名物

▲産之業 奥野氏 家紋 米判 墨判

▲名酒 三好修理大夫 織田信長公の先祖 月氏清明 名物

▲諸職師 有田利休代に浅草 ▲菊 ▲纔錦 ▲薬 ▲石塔

東成郡神社仏閣名所

荒陵山四天王寺

天台宗

寺領千百七拾七石

秋野坊 直家?

一舎利 法印

二舎利 法印

外十二坊 並ニ 楽人屋

當寺の来歴ハ凡そ世にしるところの和書し
人皇三十三代用明天皇の皇子聖徳太子
の御建立なり されハ太子仏法弘通の御
為に御在世として[illegible]の御こゝろをまします
勝軍寺[illegible]とこゝ[illegible]に於て[illegible]
守屋[illegible]御中にしてそこに[illegible]白膠木を以
[illegible]の中に[illegible]天王の[illegible]
[illegible]ともに[illegible]とて[illegible]
[illegible]と云[illegible]を[illegible]
上に四天王の像を安置し[illegible]
推古天皇元年[illegible]に難波の荒陵の東
にうつし[illegible]荒陵と[illegible]

又難波[illegible]一堂[illegible]
[illegible]
七不思議の[illegible]
[illegible]
▲ [illegible]
永仁二年に忍性と云[illegible]伏見院の[illegible]
[illegible]道[illegible]

西門の文に曰

釈迦如来 転法輪所
當極楽土 東門中心

▲ 六時堂[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

六社宮 ▲欽明天皇 ▲敏達天皇 ▲用明天皇
▲崇峻天皇 ▲推古天皇 ▲舒明天皇

十五社宮

三笑堂 井
[illegible]泉の壹
寛濶 立て
經壹
安[illegible]磨き石壹
文殊堂
南門
六物 [illegible]寮
[illegible]壹
蓮池
[illegible]橋
万代池
[illegible]寿石
[illegible]活石
[illegible]木こ橋

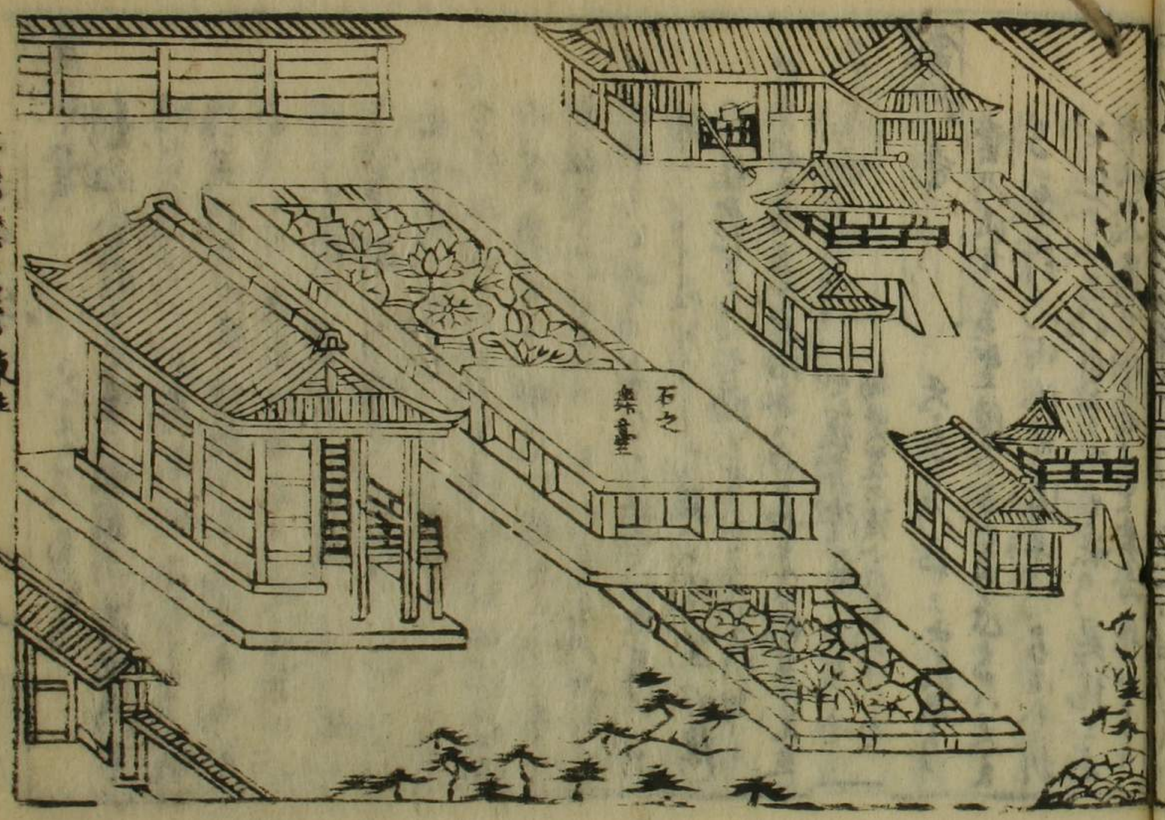
元石壹 [illegible]石 [illegible]ろ [illegible]
[illegible]万代池乃 [illegible]池の [illegible]
[illegible]ろ [illegible]池乃 [illegible]
[illegible]と云 [illegible]
池 [illegible]

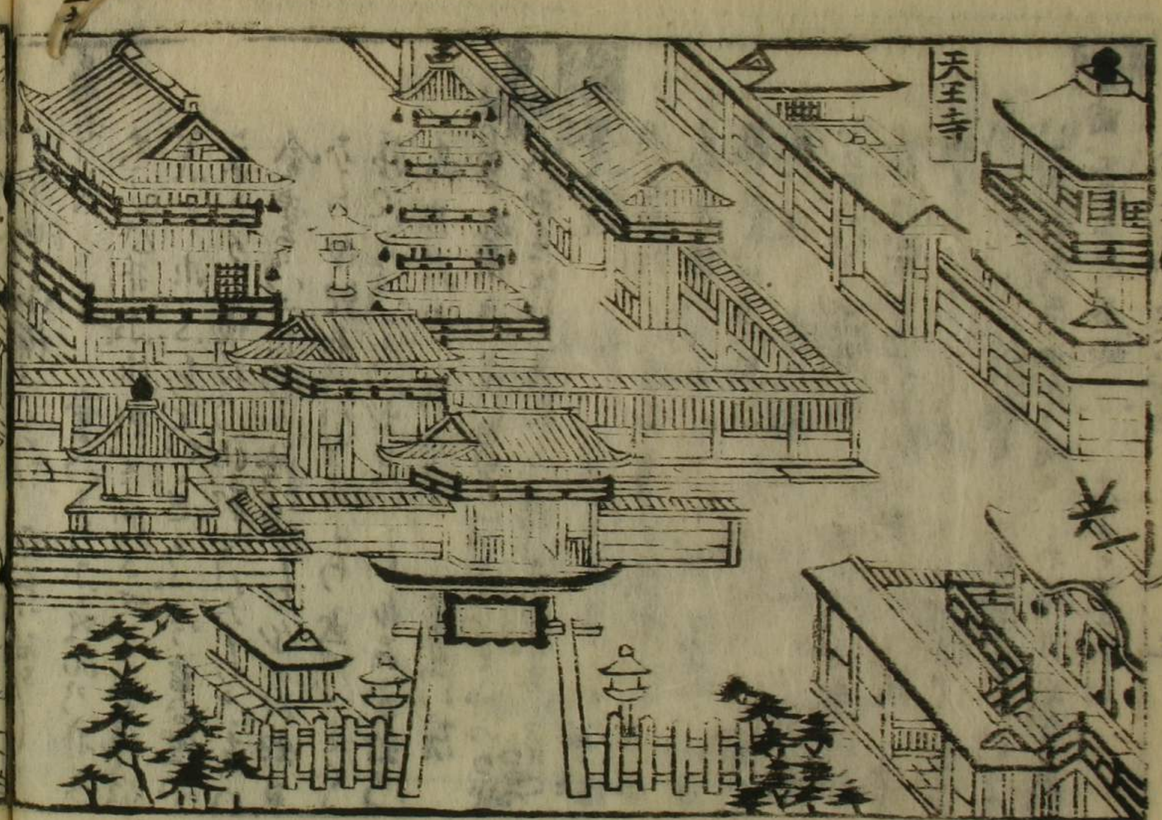
山茶集
[illegible]

天王
[illegible]泉 [illegible]
[illegible]泉の壹 [illegible]
寛濶 立て
經壹
安[illegible]磨き石壹
文殊堂
南門
六物 [illegible]寮
[illegible]壹
蓮池
[illegible]橋
万代池
[illegible]寿石
[illegible]活石
[illegible]木こ橋

元石壹 [illegible]石 [illegible]ろ [illegible]
[illegible]万代池乃 [illegible]池の [illegible]
[illegible]ろ [illegible]池乃 [illegible]
[illegible]と云 [illegible]
池 [illegible]

山茶集
[illegible]


石之


天王寺

庚申堂

天王寺乃南にあり

青面金剛と号す 抑庚申乃本
地たるいはれハ大宝年中ふ二人まる乃僧
侶民間に修行し給ふ事ニ 人庚申の年
正月七日庚申の日申乃時ふ當りい
ぼく貴わらん童子一人忽然と来り我ハ
これ帝釈天乃使者なり日域ふ和光し人ミ
而金剛乃名号をあらはし給ふ ず平人ま
ちは仏法に帰依乃志に扨れハ仏法擁護
の為庚申乃秘法を傳へさに下しまさ
れ秘文さづけ玉ひハいと吉更に語乃守本て
此秘法を衆乃為のすかれ禁ふ三尸を戒のます
多しくて法をうけし人数へがたし是に依
て諸願をとくて七猶を生ぜしらく事なし
許多の其ふろ方衆生ふハむまれや生を

寄陸塚

此ニ仏所に石碑あり
猪貝贈の法に仏所申之

舎利寺

天王寺乃東にあり
當寺乃本尊ハ聖徳太子乃作なり此寺ハ天王
寺乃末寺にて舎利乃時如意輪乃仏舎利
を此所ニおさめ給ひし故に寺乃号となせり
中比荒廃せんとせしを慶安年中より
黄檗山隠元禅師門人本庵和尚も
此ら住し給ふ乃其法をつぎ諸
稚に仏跡をしたひてこゝに一時興起し給ふ
禅室と成れり 今ハ和泉式部乃一首
重要の舎利を出し七日讃首も今も扨洞

一心寺

天王寺乃西門前乃南にあり
坂松山高岳院一心寺と号し浄土宗
院乃本寺なり 本尊阿弥陀仏 智恩
文治元年法然上人 後白川法皇二人ニ三日
相観を修し給ひ 天王寺乃西門乃
其ふ説別れさく西方極楽乃ニ三つと述
言堂乃西乃ふ禮ふ上人乃御影
六字名号をあまたし給ふ傳ふ書候
物ぶ外に三外の諸仏の籤を身も持り比
今ふ紀へく難波乃名所ニのこれあり
されバ今ハ仏遍僧紹ふ一向専修乃時
とさけいふやらたさこさしめ給ひも此
所さく乃る中に名号今に堺乃寺院
秀ずも年中 東照神君もる南ちに陣
星中あそ下し給ひ今旅陣さり又讃
堂院并ふ本丁又肉女猫瀬雲枝あるニ
霊宝諸人

一 聖徳太子の直筆之御経 一幅 ……

一 中将姫の直筆 阿弥陀経 一巻

同称讃浄土経

一 法然上人一紙三行之六字名号 一幅

本尊 不動念仏の利益 阿弥陀堂

廿五ノ菩薩堂 表門ニハ仁王 鐘堂

鐘楼堂

墓讃

三光院 岩誉良玄居士 塔 本田出雲守忠朝

元和元年五月七日戦死 并家臣殉死ノ

数輩石塔有之

新清水寺

山号有栖山 ……

天王寺より西 安井の東 ……

乃庭より ……

清水寺の ……

とおもひ ……

……

大念仏寺

平野ニ在 ……

平野中将 ……

大和 ……

……

派失ありけれバ上人融通念仏をと
なへ眞因乃ゆゑにおもく道場をかまへて此
法やうやく世に廣まり上人なくなりて後ハ
法流ちりうして自から融通乃法たえんと
せしか〻り六代中絶しけるにや
あらに深江村乃法明上人ハ又八幡宮の神
詫を蒙り融通乃法を継ぎて中興乃
祖となる三の物めいかなる霊験あり〔illegible〕
〔illegible〕これ和尚の〔illegible〕
よりのちにて〔illegible〕院を定め〻当寺を
右の〔illegible〕山済菩薩念仏院と称す
先〔illegible〕上人ハ法を弘めて〔illegible〕
乃法脈を勤行せる

法明寺

深江村にあり

融通大念仏宗中興開基法明上人
ハ此所に産せし俗生の名を清言といふ
男山八幡大菩薩乃神託を蒙り神
人方もまた此寺をたつといふ今の村合し〔illegible〕
摂南社に神佛をならべ法明上人の〔illegible〕
られし鉦鼓〔illegible〕并に佛十菩薩
乃画像又持経乃法華経〔illegible〕
なとを〔illegible〕しめし法を継て

中世乃祖とも当寺も又大念仏の一所也

安倍野

新撰 岩の上に波の〔illegible〕の海を津ぎ[illegible]て〔illegible〕たる

安倍社大明神を 松永貞徳

安倍社

安倍王子とも号す〔illegible〕より乃
名あり阿倍野にあり

▲所祭神 熊野山第二王子なり
社記ニ云 大人彦命 新撰姓氏録 阿倍朝臣
ふよりて安倍晴明ハ此所に生れしと云 摂乃
岩手ともいふ〔illegible〕とぞ 晴明の〔illegible〕波
晴明の〔illegible〕とそ清水の〔illegible〕をむかしハ此
あたりに〔illegible〕とうなひわつるともいへる
中ハありしかされど文本にも 阿倍野院
にて熊野の〔illegible〕より〔illegible〕
熊野の〔illegible〕乃中にて九十九所乃
王子の〔illegible〕王子の一なり此所之

松虫塚

古今乃序に松虫の

小町塚

〔illegible〕

そこハ小町乃塚と称まつりたてまつり
照玉乃君ハ奥州乃玉造りのみこく
陸奥国乃君ニよりて姫ぎミハ小町か
奇ふうらのくろ乃玉まうり江にて亡ぐ
よめるも小町か國乃君をもとり

経塚

一石一字乃経を法化
こゝめてくやうせし塚なり

播磨塚

播州乃武士此所ニて
討死せしおもく

大臣塚

奥州乃国司北畠源
中納言顕家卿の塚なり田畠の中ニ
墓のかたち残りて志らぬ人ハ大臣
塚とゐせしを享保年 ある人
新ニ此所石をたてゝ石碑を立く
北畠源顕家墓と記しゐふよふる
ほ人を知る事の美より来るもの有一
所業よとゑたり

出埴文

此里乃氏神ニなくをはじ
代まくも山林あそころてゆくし
ミ参れありしが此代をかくなる
絶けるなれとあり

逢坂清水

天王寺西門より乃南坂
乃ゆゑと一心ちれ水乃かさかうし 此清水ハ
天王寺乃三水乃一ありと申侍り其の
二ハ亀井 御供井とそり 此清水ハ象
三伏乃旱魃ふいちりてもかるゝ事
此水乃ゆとりふふいされバ残ふ霊水乃
精氣いさゝかとそうし名へふそく流れ
消滅もなく 酒れみふ之れおまうぐ
そこら乃里よりくみとりて是を用ゆ
用ゆさ後ろう山しく安置えむれぞ泉
乃よさくもて志らゝとゝめ乃風情あふ
志らそてまかぶしうりなりまさ哥ハこれハ玉
おか乃ゑとゑをよめり　後徳大寺左大臣
白雲の玉おかれをゝみて清水乃ゆくゑのそひと

家隆山

新古今ニして秋乃清水あかり　家隆
首仁徳天皇ハ治世八十七
年丁卯正月ふ御年百十歳ニて崩し
給ふ治歴ハちらじめもとその冬十月ふ百舌
ふ御陵をゝ営んとあるしにふゐの名のふま
や泉州堺より東乃方ニおもかなく 西面
百舌野との云ハ葬まうりしを今ふ
その無陵塚みさゝぎとして申しならハすされハその

にそれより荒陵と云かくのごとく天王寺の
山号を荒陵山と云ても此所に属くの
名なり仁徳帝の御廟は大坂難波の
地にしてかゝる津の又今の博労町に
坐す大明神かの世に稲荷と云と称す
くらいは神社の数にあらずかくの如く此山
皆河内の方より山の尾ざき先に小丘のごとく
茶臼山とも申すく然れば世俗のごとく茶
臼山といひ伝へり又元和の役中に此を発
の時茶毒もなき大将軍此山頭に御
本陣とさし世にいへる武運ありて此後
陣の前に御発命あつく勝山と名付
給ひしより今にかく名を呼来れり

國分寺

河内の國分寺なり 天王寺より東南にあり摂津
の國分寺也本尊十一面観音 聖武天皇の御勅願
開基行基菩薩也 脇士は金の像く
又天満より北にあたりて國分寺と云里を國分
村と云されば天皇の御宇天平年中
に日本国中一国に一寺の建立ありて
毎寺國分寺と号す同十一年諸国に法華
に國分尼寺ともなりければ一國に寺同

支那ならびに日本にて係る所々にて云けら
其言の端にしてかくの國分寺の名のられ
孝謙帝の後の御なり

遍照院

難波ち遍照院と号す
東高津の聖中より人家とあれ
九郎と申しにて向中あり
十一面観音并不動明王中尊なれ
本尊六寸三分と和州長谷寺の観音と
同木同作なり古へ凡七堂未来清の持
会 せしちりなる日向か宝ぞ清水寺の
此へありく近江国三井寺智證の筆
佛さうしそ此の此やいちに安置せし
めなりとし又本堂ありて今わ此なされ
仁徳帝の文并天神八幡稲荷の
三社ましませり

安井天神

乃峰の上にかれり 天王寺の西北坂
社祀不得考 祭神一座菅神 茶屋一軒あり 祭八月廿五日

玉造稲荷

祭神 稲荷明神
社祀未考 摂州玉作りの里にあり

名寄
住吉の名跡の第乃玉作稲荷なり 此社を祀く
好忠

延喜式ニハ従五位下乃条ニアリ
奇ト出リ故ニ又山ニ不ト云ニヤ
森ノ神
祭神　用明天皇ノ御子麻呂古王ヲ祀ルト云ヘリ
森ノ宮ト称ス旧事紀ニ天孫瓊々杵尊ノ御子生玉命ト
生玉社
摂列ニ載ル所ナリ
社領三百石
別當　南坊　真言
天生玉神　亦作生玉命
新田郡直迹
祖也　旧事記ニ天孫瓊々杵尊ノ御子生玉命ト
神名帳ニ云ヘリ
所祭神一座
天孫降臨ノ時降従シ神也
足利十代義尚遊猟ノ時社領ノ内ニ神地接境ノ
所ヲ押領シテ社ニ不入ト云ヘリ
神領三百石ヲ寄附シ
中人王百五代後土御門治天将軍ノ御宇ニ又領知ノ
判物ヲ賜ヘリ
神悪不勢罰仮借ナキ
ト云ヘリ
宿禰而今ハ神主ト云ヘリ
辞也　按日後卦ニ曰渙其躬ト
厥ヲ渙散因伝ニ兵猟ヲ野火之謂ト云ヘリ
ト云ヘリ
付二十二神ノ内ニ
真乃ヲ祖ト云ヘリ
二月雅楽乃譜ヲ伝ヘリ
ト云ヘリ又ノ天孫降臨ノ時ニ供奉シ
大和ヨリ二族山ノ天降祖乃女活玉依姫
ヲ娶リ賀茂ノ神ヲ祭ヘリ
ト云ヘリ

年中行事ニ秀吉築城ノ為ニ社地ヲ没収ノ時ノ事ヲ片桐市正ニ且元ヘ伝ヘリ
▲御位貞観元年正月廿七日授五位下
右ノ記ヲ以テ考ルニ此神ハ天孫瓊々杵尊ノ御子ニ
坐ス天上ヨリ御ス所ノ神ニ御ス故ニ
付二十二神ノ内ニ
真乃ヲ祖ト云ヘリ
二月雅楽乃譜ヲ伝ヘリ
ト云ヘリ又ノ天降祖乃女活玉依姫
ヲ娶リ賀茂ノ神ヲ祭ヘリ
ト云ヘリ
比咩
活玉社
祭神一座　下照姫命　大巳貴命ノ
御子ニ坐ス神ニ坐ス神ト出雲ノ神ト和
奇乃祖神ニ坐ス天稚彦命ノ妻ニ坐ス
又ノ雅玉ノ名
乃ヒ天稚彦ノ天降リ
ト云ヘリ又ノ天降ノ時ニ
下照姫ヲ留ト云ヘリ

みことのりとうけたまはりて天孫のうちそひくだり天磐戸引ひらき天八重雲をおしわけ命を稜威の道別にわけくだりたまふ云々此神天稚彦矢の中びくかゝむことをおそれ天羽羽矢を返し給ふ此矢飛行て天に至り天稚彦の胸に中りて死給ふ

○又雄略天皇の御宇に秦の酒公仁徳帝より賜はれる百八十種の人民を率て富加登豆乃神社を勧請し給ふ

と伝へ一日に雄略帝より賜はれる百八十種の人民を率て富加登豆乃神社を勧請し給ふ

文永

△西成郡 新社 佛閣名所

摂州西生郡生玉荘

津社

祭神 仁徳天皇と云

此社は神代の頃は今の江口村の辺にありしを今の社へ別て社を移せり今これを旧津と云

古へ堺の内古町宮方にありしを

徳帝 御宇に此所へ遷し奉る

所祭神三座

素盞嗚尊 奇稲田姫

大己貴命

小祠 俗に小十日えびすと云

此社ふるくは住人乃森氏社司なりしより九月十日祭礼ありしとぞ

天照大神

森氏社

天正年中兵火に罹りて焼失せしとぞ

此地は六月の祓并に八月の放生会ありし所なりしが今は絶えたり

廣田神

祭神 伝未詳

右社地乾の方にあり

神馬

右乃文

川

右乃文

川なり古へ天王寺の辺より

つゞきて一川とぞ

難波宮遥拝所

祭神 天照皇太神

裏乃町にあり

旧記に云ふ後鳥羽院文治元年二月十八日我朝神事并仏事等悉く摂津国難波の地に遷し給ふ時義経を護

多日こゝ社記

和銅記ることく見えず年三度乃三月の祭日
開帳ことく有まもり更乃更乃の
記傳しるせり

日月宮

祖社死ヽ不歴ゝ有乃社乃おおおり
多らず

神明宮

祭神　天照大神宮　八幡大神
末日大明神　式三社並
此宮勅請をしるす
式社の人三百九代後陽成院乃正宇に修勝
國ふ小里田乃伝うしこゝ人うの社乃表
ふ志神　天稚彦神　式内社ゝ有とゆ
此神勅と都り心有と古面面へ表れ
いた来るそれ例勅り
大坂ふ勅使然度ま
神とゆ　なもうとゝ

三津八幡宮

那波郡
もうの旬　布施村
社乃隠賜ふ那里武天皇

勅使ゝうの人何ゝ和ゝ
華ゝ乃ゝ
乃り　布ふ式那波乃四座
式内神勅ふ志ゝ乃ゝ
美表ゝ社乃北乃
それ昔ふ社乃基乃
そゝくゝ

稲荷社

那波郡
甲田妥藏

社人

上那波左海天宝大宮
世傳ゝだくらうのうゝ
大宮司代ゝ宮
条天神那波宮大神
摂武ゝう延喜
教對ゝう世傳ゝ
厭ゝのうゝ
高ゝ乃ゝ
ぶんゝう
代ゝの　天子

造営の時遷宮よりこうりうあるよりいわゆる
御供田地を寄つけむこれ始めなり今尚
六月の月次祭にこの神輿をこゝにうつしあり古今
名称あり

饗古今称稲

郷俗はやくごりうもちひるなり

ひとのいわく初穂なるべしと

羊形天皇

三郡の産土神

延喜式に羊形の民をつかさどりあがめ玉ふとあるこゝなり
羊形天皇の時に三郡の民ことごとく繁昌し田畑無量に開けたりこれ
ひとへに神徳なり
羊形天皇と地名こゝに起れり
神と崇められしより又御供田ありしなり
古へ隆かりし度ごとに
奉幣ありしなり

産霊社

當社旧社地は今の八幡屋敷の
元濱乃宮より西の中洲にありしを
寛永年中洲続き町二十間ばかり
を後今の地に遷し奉りしなり

祭神一座

神功皇后三韓征伐の時
所祭の産霊神と云ふは又別なり

神名帳注

此所に鎮座の神功皇后
三年十一月百済王
神功皇后の時
中に記せる物部首
神功皇后三韓より
帰らせ給ひて
十六年
産霊神
雲州大社
勅造
紀朝臣
雄山閣
昭和二年

祭神

聖徳太子

俗説

祭神は小津村平
井氏の祖先
永正元

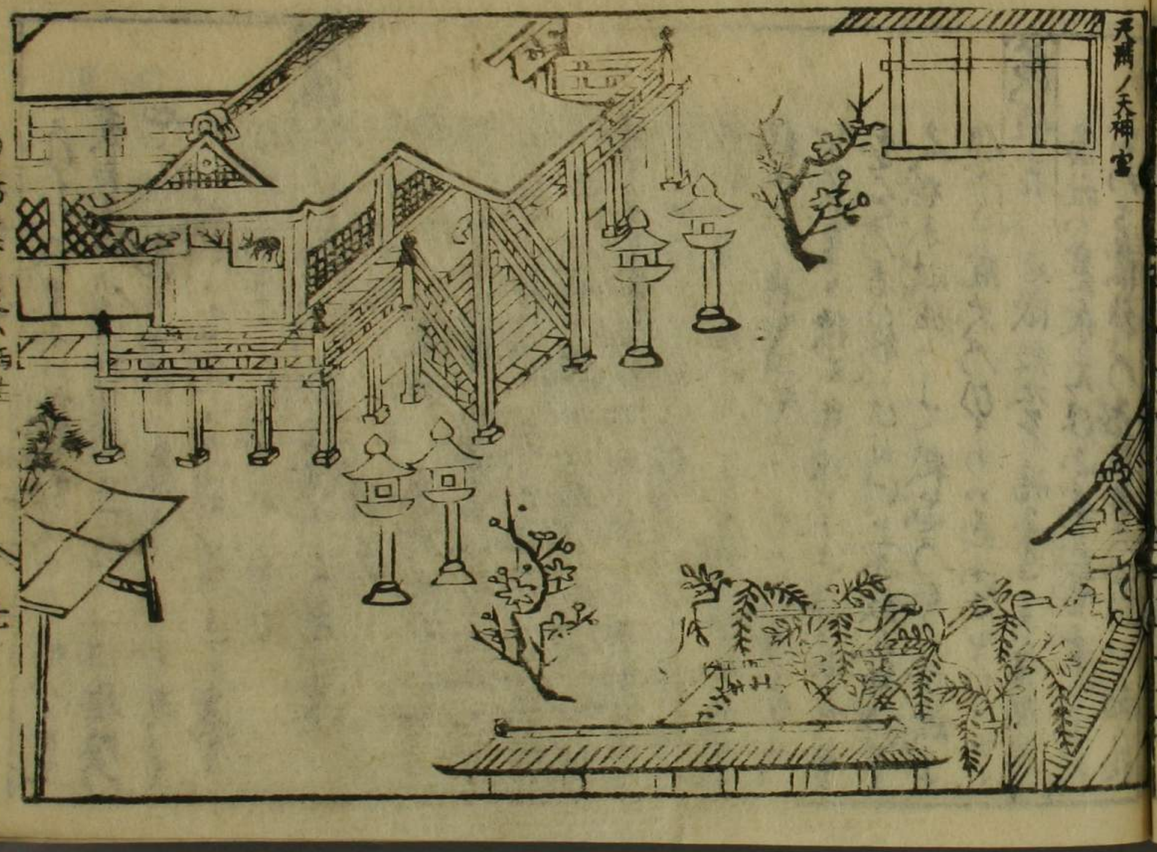
なりと云伝ふ乃ち姫塚なり祭九月廿七日又六月十七日に夏祭あり多く賑し往古の御祓(はらひ)依と云ひ式の神は常に霊験(れいげん)あらたなり
まことに又当社の神霊を恐れて此社に参りて諸々の祈禱を修す
弘法大師一刀三礼乃作なるなり

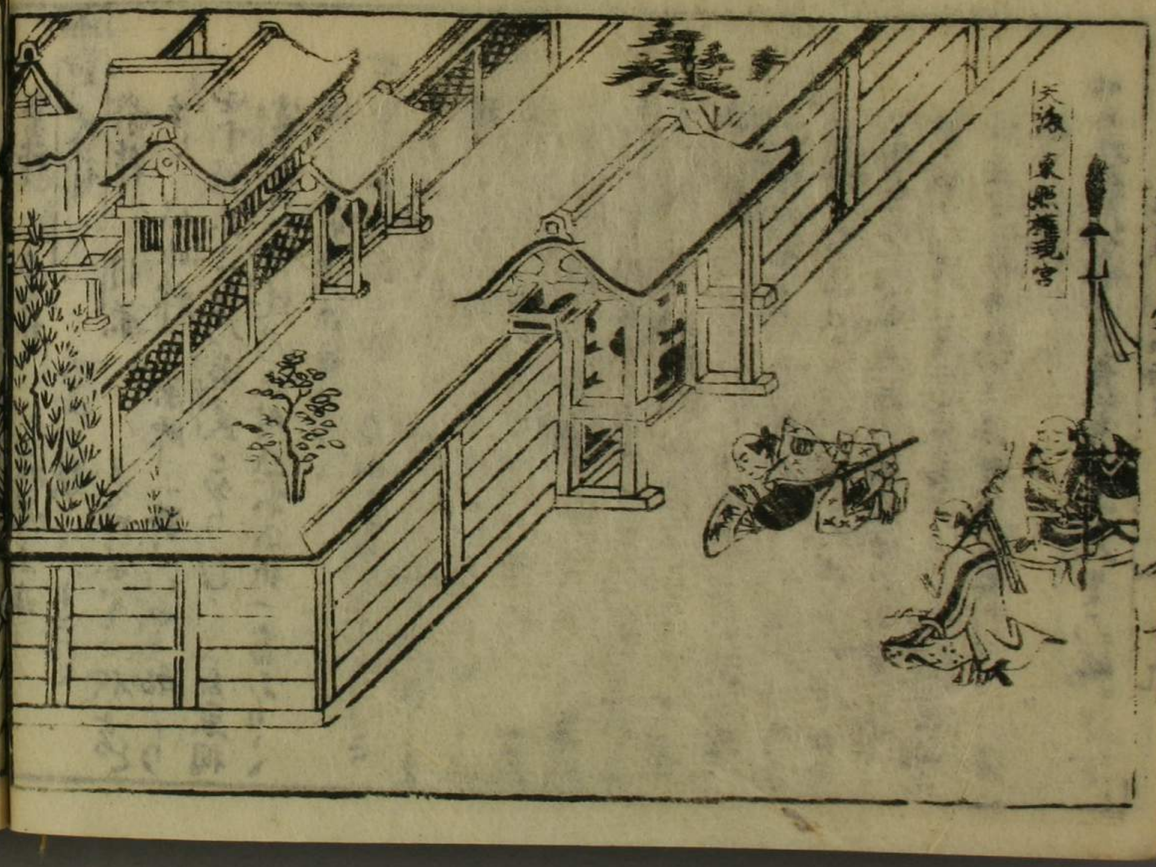
天満
組 天満　大坂三郷と云ふは南組北組天満なり
天満と云ふは此天満宮三ケ所なりて大川乃北をもとて
福島新地なとに及ぶ天満の町々ことごとく繁昌にて大坂のごとし
古社武家ことごとく屋門をそなへ

上町 権現宮(ごんげん)　天満宮より御宮居たてさせ給ふ
御当社元和三丁巳四月松平下総守忠明侯　公の
命御宮御建立有之御別当神宮寺三河和尚
別当なりて九昌院といふありさまは
御神体をおうつし奉りて
天満乃鎮守と号し今宮社内にありて新しく祭り
祭日四月十七日なれば花祭を号す

大将軍 天神
号る根源は大坂天満乃方をし
将軍の方将軍に祭るなり

祭神 当社
綱敷天神　社記に曰
祭神 同前
天満大獄なる乃名なりき
菅原の小野の聖廟にあり
ゑく　此神は菅原乃小野乃聖廟にあり
四十餘年後乃遺(さい)愛(あい)なり也し　菅原相
宰府(さいふ)へ左遷(させん)乃時此家に一宿ありて
御しきものとて
営造して都へ入給ふことを濁ることなり
かの御船の綱をまるく丸めて御座となし
識乃和歌を撰ば(?)
下に一葉の松生出て帝代乃古跡なり又いつしか此
社となり天満宮の御旅所なりとぞ
後冷泉院の御宇寛正四年に綱の座あるにつき
又大坂なるに此社内に松樹(こんじゆ)ありて二本ありて
嵯峨天皇弘仁年中の頃勅願なりて弘法大師
開眼供養の御鏡を納めなりといふ
又後ことに此神なる乃本地の
菅公なり菅原相乃御霊をまつりて覚寺にて
内なりしを菅原殿下の時御勅願
に立せ給ひしに覚乃額なりといふ
ありしとぞ
此の社前の茶店には氣色よく見へて
里乃小まつ


天満ノ天神宮



天滿天神宮

祭神

菅神

相殿天照皇大神宮 天神御母

勅額 天照皇大神宮 天滿宮

日像 天滿乃板除と稱す 祈雨奉幣

菅公左遷ありし九月廿五日氏子

同此所にて告別の酒宴ありし

ゆゑ此町を九月會式町と云ふ

又菅公の御遺愛の梅樹を此所に

植ゑ給ふ 俗に飛梅と稱す

菅神御自作の像を安置し給ふ

茨田堤

高田村より天滿宮の邊迄

凡そ九條許の堤を云ふ

古は淀川の堤なりしが

今は川筋變じて陸地となる

當社の寛永元年の棟札に

茨田堤神の勅額と記せり

天滿宮の氏子町は

天滿一丁目より六丁目迄

北は堀川より南は

天神橋迄の町數なり

天滿宮の氏子

天滿組

大蓮寺

當寺乃祖

高祖乃卿おわう

大蓮寺

當寺は

日蓮上人

御弟子

日像

開基

天滿組

當寺乃

氏子

神仏合利
法吉祥
伯耆町 観音堂

天照皇神社 六所権現 一号ず
もと二ツ町の内にあり 元和年中 米子城主 加藤出羽守 安藤帯刀 両代の造営 寛永年中 乃建立 三間四面 檜皮葺 観音堂 元和年中 米子城主 加藤出羽守 安藤帯刀 両代の造営 寛永年中 乃建立 三間四面 檜皮葺

三津吉祥寺

八幡乃社有
又開基分明ならず 伝ふる所は三津八幡乃社有 其地を天王ヶ原と云ふ
其ち三津八幡乃社 其地を天王ヶ原と云ふ
ぞんじ 其ち三津八幡乃社 其地を天王ヶ原と云ふ
ち祇園社 其地を天王ヶ原と云ふ 八幡乃社有 其地を天王ヶ原と云ふ
ち祇園社 其地を天王ヶ原と云ふ 八幡乃社有 其地を天王ヶ原と云ふ 再興し

観音寺

当寺 霊鷲山 金龍院 法華宗 京都 妙顕寺 末寺 生駒山城国 葛城氏
文禄三年 乃草創 開山 日祖 大僧都 日朝 上人 天正十九年 辛卯 正月 十五日 寂
法華上人と一心寺 勧請 ありし 白川 法華上人と一心寺 勧請 ありし 白川
日祖 上人と一心寺 勧請 ありし 白川 日祖 上人と一心寺 勧請 ありし 白川
河原 乃 一本 乃 寺 乃 ありし 白川 河原 乃 一本 乃 寺 乃 ありし 白川
て 当所 乃 一本 乃 寺 乃 ありし 白川 て 当所 乃 一本 乃 寺 乃 ありし 白川
霊鷲山 金龍院 法華宗 京都 妙顕寺 末寺 生駒山城国 葛城氏
文禄三年 乃草創 開山 日祖 大僧都 日朝 上人 天正十九年 辛卯 正月 十五日 寂
法華上人と一心寺 勧請 ありし 白川 法華上人と一心寺 勧請 ありし 白川
日祖 上人と一心寺 勧請 ありし 白川 日祖 上人と一心寺 勧請 ありし 白川
河原 乃 一本 乃 寺 乃 ありし 白川 河原 乃 一本 乃 寺 乃 ありし 白川
て 当所 乃 一本 乃 寺 乃 ありし 白川 て 当所 乃 一本 乃 寺 乃 ありし 白川

安垂と仏縁乃ありそかりしかる
世俗みだりて頼庵乃地蔵とよなへる

本元寺 日蓮宗

真如山妙光院と号し開基定俊院
日寺大僧正を始め加列金沢の産
武田信法なる人ま
乃二男壱名若柔武田孫三郎
王成年一歳にて
寿命院日幸二世
名僧なり
ちかくなんぞり依て本堂
ま
ま

龍渓寺 時宗 庵

大仮三年二度の礼所
一向一揆の
此寺住持細川如心
うつくしき数珠
こんどひろいあつめ
まほとぎす富田善門
てゐて云しこそ
基一
三年西海乃
大洲ふるより
三月
名所
芳桂吉
黄檗山
宗流
元禄時
高田善門
依命
黄檗第二世

竹林寺 曹洞 壌嶋 有

大洲ふるより時
乃ふるへく遷化しぬ
三十年前
今最
乱向
一揚
鈴渓禅師
受富
教像
卯月廿日
渓法
見
不消
不孤生
漏記
大洲乃
列僧
そう
とて
ぎ乃
居士乃
山号
大洲乃
仏乃
一年
抹乃
世
渓禅師
寿命
元禄
黄檗
第二世

香西背雲老人茲に疾ぬおかし
江府ニ余閑ヲ請フ不尉ニ嫉ミ家臣ニ
代ヲ難ニ萬以テ帛ヲ戯ニ十如禅師ニ云く
瞿然此義を抜群　治良賢倍毎辛勤　四雅 山子 梓
然心深猿士蔵雲　変化御文東日云云
又ちの内小雑波津乃ぼりしとぶひやり一本乃
梅を植おかれを花さかりかりなれバ一枝とよ
折く烏丸光廣卿へまゐりけるとて
老後乃みみ老ゆ翁れバ見よ雑波津の梅
わくの多くお知小雅言らんもとも思ふも雑波津の梅

長柄豊崎旧都　三十七代孝徳天皇　皇居　本庄村杁原宿官

太融寺

桂本山太融寺ハ嵯峨帝弘仁辛丑年の　昇格の
勅願なく此なゐハ釈迦菜師多年釈
乃三尊なり則弘法大師と候し開
眼供養とおしまふ則帝の御手乃堺も
左大臣源融卿を勅し兼和
乙世山法経七堂を建立しおふと放ホ
融公の御律とゆくち号と令し太融
ちと称ふ文悦多孫上皇嘉元丁卯
年当ちく風鄴をめぐらしおゝやの勅記

一　小児ともより当ちの宝蔵ちはかちに中に
一　世ある説法乃時の御袈裟　弘法大師作
一　嵯峨帝御信心乃御ちよなる　弘法の三尊ちる
　柄乃殻乃中に納め参勢至阿弥陀の三尊を
一　此天子の像一幅　巡中お姫御ぐしの髪ゆく
　種字を縫ふふ物と　之外数種の宝蔵ち
当寺乃规あるハ大坂卅三所乃第一番乃札所
なり
天照太神宮　弁財天女　此二社の又
ちちより南東三町余小まし他まし天神乃
社明之　又此寺を東乃方とぞいうり
是ハ源義経と梶原景時と逆櫓乃論を
おせし時の櫓乃木を伐らりしおくとぞいう

釈迦堂　(五条坂上清涼寺)

此本ハ古へ長柄乃里二派乃渕
ありら毘沙門堂乃渡えうると伝へ
覺深上人源氏浪職乃為像をうつし
秋迄永来と安置し則又嵯峨山清涼寺
号し覺深も寓居しまたり
本堂阿弥陀安置　他
地蔵堂　他
六字大名号　文字は大サ一字二尺余
大概とゆく上下十五尺余なるし　布二十

河内國玉手郷松上八乃至雑なり後
ホ主ありの奥ね希代乃奇ゐ
【紫孫ち】 ゐまそ一多へ玉社乃決さそり
ゐなる十一面観音 聖徳太子作 開基
徳叟和尚 摂を細川内ら持突也普光
改版乃ゐ玉造ときこそき
法そ一く今ホ久方ゐ乃ゐ神判ご事務
一あれり奥ね教ゐる中也
ま龍雅多
一温泉像 一幅 ま
福三洞 大師弁 高ら乃坂松林の月ホ正
【大教ち】
孤独ゐ山大教ち と号ス 祖拉入ゐと乃ゐう
伝新乃孫ゐ多一く ゐ玉ご事仏
ゐれ人拉ハ三年生 拉ら乃ゐた仏ら
薬海て拉ほ乃性を と西満ぜんこく
多交ふそ一多へ充潮流さうの ら奇蹟
とろ多一びくも人拉と入く 薬補あ
ハ池後吹拉ら玉さ中 観世ホ及びしく人
国玉あ乃多ら不宮 とよ一く人拉乃人
とまれホ都とろホを ろ一ずそホ高あ乃
望ホ岩氏 ら乃人山宮と 教ふそ多ゐ
乃ふうゐまとそりふ 待乃まちホまご

ひわんそれど人拉こ世代池拉教ゐ教ゐ
ゐり買ち是ゐそろ化 ゐ
まちホつごさる刻これ岩氏 ご まろふ待の
なすホろ高拉乃ゐう ふ
今乃中後とゐ人山宮と 僥乃花こゐり
も玉乃を拉一ゐり都 大阪雑度と云
拉乃人ろゐ化 ゐ 達ふそく 岩氏の
宮猫といの一め教ゐ 今乃大教ち是り
又奇ふの指りとちと ふ
ホ病ゐの指りとち生ふる 乃
又ゐる一化測ふそ乃岩氏ご人拉て入ふ玉ゐ
これ岩氏乃娘ゐそ一河内国林野
ろふうや山岩氏乃娘ゐそ一河内国林野
へこれうしむおいごろ久一これ悪ホ
つこそく冊のそ一とろ支化まびらや
ゐそんホ一て奥教ゐそこだはるの
ゐとのひくふこそ紙ホ書付ゐろ奇
ふ一ゐくこそ紙ホ書付ゐろ紙没ゐ
ふ乃ろ何とゐ乃ろ町支ろ町
拉乃娘ゐ娘ゐ娘ゐ娘ゐ
ご奥ゐ乃く撰述ふ
乃海紙ゐ史これとゐ奥中乃娘婦

うらめぢく
[illegible]

三宝寺

當寺ハ大日とのゝ[illegible]
[illegible]

四殿寺　并稲荷

[illegible]

難波新田

[illegible]

亀山院八十九代伏見院九十二代両帝より
勅願寺の宣旨を蒙りまた後山科御
本願寺にあり此時叡山の徒まどく是
を破却するにより流浪して摂州大坂天満
寺の御坊を置かれしに親く 俗に大坂と称す
此所に移く法流日々にさかんに時に織田
信長公と戦争をや そのち和睦 天正年中
に諸くし東坊を退く京師六条に移され
京師に移くもまた二大派と称すと也
御大谷の頃より親鸞上人の墓今東山
寿院の中崇泰院の遺跡たる松樹
の下にありし也後に又鳥辺山に移され
鳥戸山北に大谷の御墓とあり又山
科の旧跡東山村より第八世蓮如上人
の境墓あり 西本願寺記録抄并ニ
此地にあること雑列附志に委し

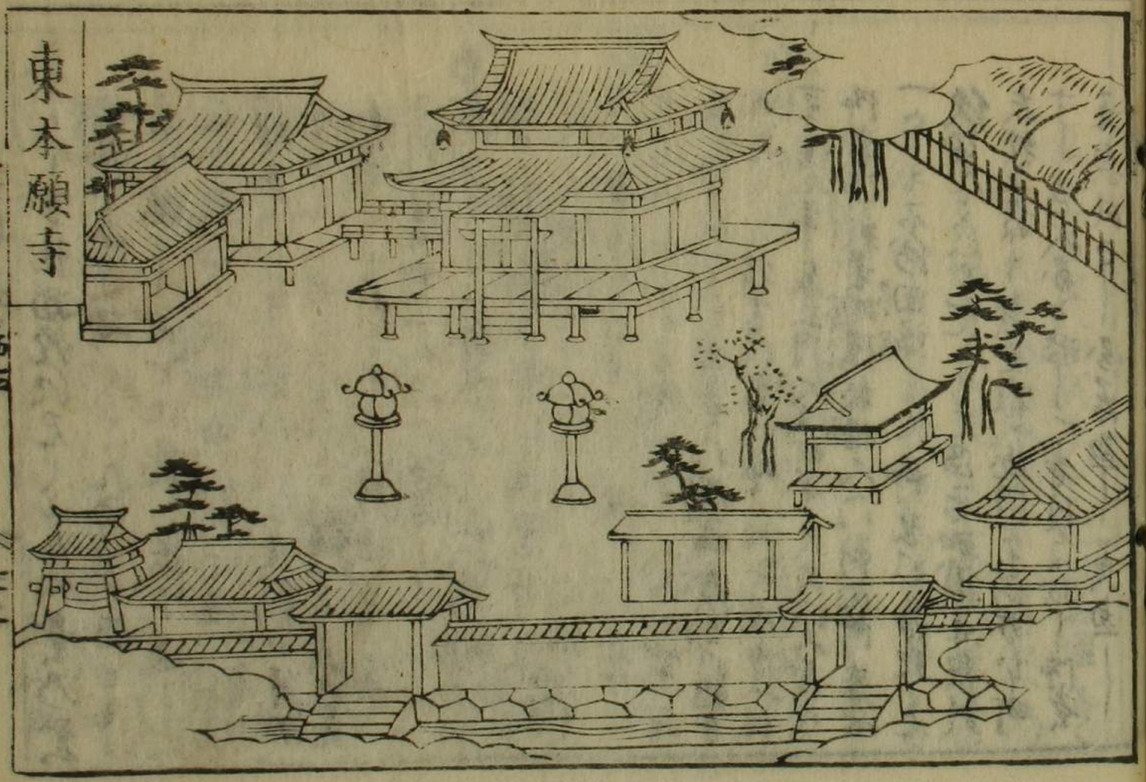
▲難波に御開山より第八世蓮如上人
八十二歳明応五年 人皇百五代後土御門 七月下旬初て
大坂石山の池の辺に御堂を建立せら
れ三年の間此所に隠居し蓮如上人まで
此御寺より時の御堂屋敷今の
御坊の内にありて又石山の御坊といへり
時の其の井戸といふは今の大手口なり
また文禄年中 後陽成院の御宇 に天満町一
丁目に御堂を移されしが慶長の始めに
八丁目の御坊とよびしとぞ又慶長
年中に開山より十二世教如大僧正今
の上難波の地に御堂を移されて建立
ありしより此時代の御影ありて給ひて
ありしより御遺骨を蔵し給ひて渡辺
渡辺の東の方に御遺骨を安置して演

津村御坊

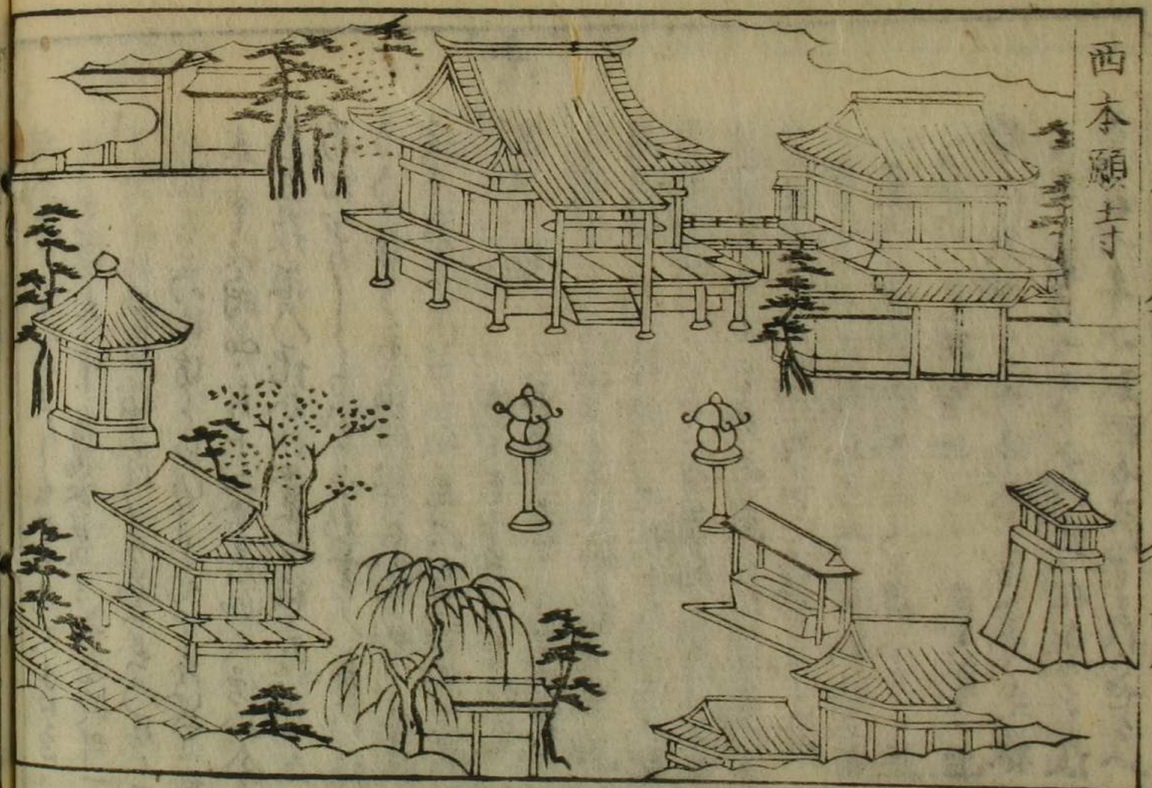
西本願寺なる末寺の御堂
備後町より本町まで

御開山上人の御かたち東の御堂の下に
あられ 称 津村の御坊と申しは慶長
七年に開山より十二世准如大僧正の御
建立ありて此地を御坊に定めしなり
十一世顕如上人の御子三人ましませ
第一 光寿教如上人 東本願寺祖
第二 佐超顕尊上人 興正寺
第三 光昭准如上人 西本願寺祖
顕如上人御年五十歳にて文禄
元年十一月廿四日に御遷化ありて後
慶長七年に東西に分かれさせ給ふ

東本願寺



西本願寺



[illegible]

[illegible]

[illegible]

なりそ神れおろしせそみ池おろとそ
わそでう池といいくみろうくいしくは
告さえ寺すろんぞ又ふたりそろ
又ここれる又伝のあり雑波と父和ふるとそ
ひ的ろりと和ふれおろ一時ふれおろ獨
も古に世乃るそろそろあべ風雅集よ
ひ如来乃ほ奇ここく入作り
伯耆く歌や告よるあまとそ
綾美もろずとろ

おそ名しろ

千日もろの

ひあい酒と醸
作名くひ一ろ

秋田屋しろ

井あそろ子日る傳みそく多性と
同くと

天狗しろ

右口乃あい前ま名井あしく波
方ふ貴族と酒ふ和しく天味ろ

剣皮松

乾乃方一里ま

江口里

大坂ふ名井あそ
大和西村ふろ大坂より
江口右乃四依ひ村ふろ

大坂より二つ里ひ

大和河渡

川幅
ろりかよ渡石架りそ川浪

雲源

当屋大坂と
岸乃上に今乃
とひ一甘和と
七夫風波とあ
あしひふそ
て雲源とそ

三枚橋

と京町ひ三り方角抄
乾乃方ろ乃海ふ
あい又名和集
いりくそあ子
ふ知れば越来
個村あり

吉今
ふりそ
ふあひくろ
ひ初ふ難波へ

建保
酒ふて知れやふ

大和西村判皮村乃名
小中橋と名大坂ふ二つの名
川幅ろりかよ渡石架りそ川浪
雲源
当屋大坂と
岸乃上に今乃
とひ一甘和と
七夫風波とあ
あしひふそ
て雲源とそ
三枚橋
と京町ひ三り方角抄
乾乃方ろ乃海ふ
あい又名和集
いりくそあ子
ふ知れば越来
個村あり
吉今
ふりそ
ふあひくろ
ひ初ふ難波へ
建保
酒ふて知れやふ

福浦　上福浦下福浦ニ分ル
今乃雲浦乃新地ニうち入ル川ニ而
より川毎ニ舟ニ而ハ
藻乃ごとし　古へハ農夫乃
ごとき森乃川着橋乃ほとり
ごとくニ人乃ゆき
ありくうち山ハ
ありうちのされいなる乃
仮ごとくニ
けれバかうちごとくニ
ごとくニ人乃ゆき
けれバいとゞもうるハしきく
ごとくニ
ごとし

○光川　雲浦新地より福浦へ渡
うち川ハ名乃
い橋ハとうくゝ
野田　福浦より古茂江乃
野田村ニ
乃名木ハ
未だうち古へハ
遊船ニ

しゐうち今ハ人住
ごとく計
乃ごとく
笑からくゝ
さりハゆく
りニハ
と号し
毎年
宝一
ごとくニ

○野田川　雄波乃ニ
流れくゝ野田川と云
されバ海人乃
村船ニ
ごとくニ
ハ合ハ
うちおゝ

○信浦
村石浦ニうち
巻浦ニ村
名村ニ

難波橋

上下の難波ふたつさる
和泉川の橋の名ともなる
小浦乃町しるこの名あり
へのくさ一ふもこれが難波潟ふるや
此所とうさ一名名所乃数乃
みおつくしを名れ
下ふるこもん接人
ふるべし

多ろうの橋

あろうこの橋ふるもの
古ふ大坂るの北かの辻りにこの
多ろ一乃橋のうらくおもし
まち
名ものとられ淀乃おう今ふ
可
世中にわうわの津ふ乃多ろ
乗心男もこの橋もろもし今ハ
なまもあまるさ女訪おとまり

天の橋

方角抔ふ難波乃おとも天乃橋浦岸
天王寺ふ
多く青乃もしは
乃作産
乃おれあろ

夜名志橋

夜名志乃
方角抔ふ天乃橋浦岸
天王寺ふ
多く青乃もしは
乃作産
乃おれあろ

大江乃岸ふと
抵乃間ふ
町ふそ
今ふ
名付ふ

比売津橋

中業
住吉乃難波乃間の一橋名付
おのもろ一ハ古へ乃集
引ふ
引ふ

杉乃橋

松江

小高ふとうとく
号一乃ふと日本紀
渡村とも一ふ
松ふそ松乃
大江岸
ふ

大江岸

かゝるすべて大和物を記せるもの
ゆゑ大抵乃名所ともおもはれず
（代ホ一首つゝ俤殿風ニ詠ぜるなり）
うたまいれるものゝ如くこゝに
乃野辺あそび山辺のそゝろ
歩行の興ありて梅川と号せり
乃所ゝ其かゝる名所乃
川をとく名づけ梅川と
もそ例乃雅やかなり
雲浦乃月
小松浦
沈もそでを濡り
大抵のさま山浦のおもむきに
秋野さし渡
野を見
三津乃渡
月浦
雲津
又仁徳天皇乃天化り
雑波江
雑波江
或ハ雑波江ともいふ
乃庭
芦
葉
玄鶴
おのゝ小松
雑波津
雲津
三門の浦
大抵のごとくの
梅
衣
玉もの
俤殿ふう
雲津
雑波江
或ハ雑波江ともいふ
乃庭
芦
葉
玄鶴
おのゝ小松
雑波津
雲津
三門の浦
大抵のごとくの
梅
衣
玉もの
俤殿ふう

三津
羅波浜 三津
ともに歌あり

三津の里
那波や三津の浦風吹うつる
三津乃松原
浜ちどりなれや 濱
三津乃濱
多奈浦の出そり
三津乃橋
なしことの橋
あしべ濱
あしべ乃濱
名草乃沼
羅波沼
羅波沼うかこ音のあ
天江乃浦
ふもりう大江乃うら〳〵とよめり
かぢ
舵沼乃海

多奈浦の出そり
多奈浦 小貝 羅波うら
羅波の濱の双濱
名草 梅 沼
名草乃梅云ふ沼を
の沼ふりあやめいふ者
多奈浦ふ出そり
大江乃岸 に梅ありて

大坂より二里半ふ有り
貝塚ふ有り 浜のふ松

△川邊郡

奥村大明神
西畑聖村ふあり
平野大明神
刑平野庄ふあり
天王宮 牛頭天王
額を東向ふ有

聖宮ふ天王ふと称す
伊丹町 立 社僧 金剛院

多田院村より一里ゆ

右ふより北丁西寅ふ当

高倉大明神
あり綿楽る村ふあり古俊ふ乃ふ
源陽ふ灵八所乃内ふ祭まり
天皇灵龜二年ふ右大臣藤原不比等
灵徳と云ふ〳〵二十二家安倍仲丸十六
来二八庄ふ字文乃氏遣唐使ふ従
く入唐し一聖武帝ふ天平七年ふ
吸外ふ立唐廿年ふり帰朝ふ天
平神護二年ふ右大臣とすふ八十
入唐し博学ふ
綾ふり登庸ふく大臣ふ
幸乃寄龍二年
彼行と同六年十月高俊公薨ふ
二家とゝふ山ふ

若宮
と称せらるゝ尾崎にあり

蓬莱山海平寺と名あり

崑崙山毘陽寺

大坂より四里北伊丹より三里九三町西

聖武天皇天平五年に建 摂州河辺郡武庫山にあり開基
行基菩薩なり又我朝の四十九院の一也
行基ハ始摂河泉の後裔之姓ハ高志氏
泉州大島郡の人天智天皇七年に生
十五歳にして出家す法師に親しくことく
く道備せり乃化の世を済或ハ嶮難に
橋をかけ乃流を作さ海路を通じ
とこ河にさ渡しを開き寺を建らる
天平年に當地精舎と名んとて丈つくら
薬師乃像並ニ十一面観音及び梵釈
二天乃像を作り安置し聖武天皇大
志を労し百工精をこらして撰く大仏
殿を発する名を崑崙毘陽寺と号す
行基菩薩寺中も開き荘田とて業壱千石
百石を収くる度に摂州第一乃名刹
と称すとかくるに天正年中の兵火に
かゝりて焼燼となりて其後も寺地に少々
を構へあれる並ニ開山乃像を安置せり

鷹尾山多田院

川辺郡 別当奈良西大寺
知行

當院ハ摂津守源満仲公乃廟墳也
本朝六十四代円融帝天禄元年に建
源賢僧都として住せしむ 満仲ハ三男
満仲ハ世乃知る所清和天皇乃玄孫也

清和天皇 貞純親王 六孫王経基 多田満仲

延喜十二年壬申四月十日に誕生し年廿
四の時始て源姓を賜られ源家乃統祖なり
円融帝乃貞元二年に六十六歳にして剃髪
満仲入道法名を満慶と号す 天統元年 一條院長徳三
年に八十六歳にて卒せらる河て痛に深て
防臣と云付て云甚遺言に此所に墓を営むべく
當院に廟をたつべし あくまでも墓の周辺
神とかわりてあふ故に家を擁護すべし枝
葉とかんとすべし昔に云ふかうらほとく
云年ゝ要祥あらば逝去ましき命に
住く當山に後を孫に凡生にのらず
其誓語むなしからと今にありて霊瑞
時として新あり出家にありあんとこと
ると記は廟霊明神とて数里に守り
へ並ニ天下乃安危を志めもらる也

そうほ悪性美[illegible]中興より二百四代後土御門[illegible]年[illegible]
八月十七日[illegible]石[illegible]
て綸旨二位と[illegible]
うとうごんちうこまに今[illegible]
天[illegible]仏閣荘厳[illegible]
又滅仲の[illegible]
と[illegible]
造[illegible]
[illegible]伝[illegible]
百代寺[illegible]
[illegible]記[illegible]

渡辺寺

補陀洛山渡辺寺[illegible]
檀金三寸八分[illegible]
[illegible]釈[illegible]
大師開基[illegible]
満と云く大悲[illegible]
て般光大悲[illegible]
小庵にとゞまり[illegible]
勤[illegible]

[illegible]

独[illegible]
師の地小祠[illegible]
とかんごと[illegible]
[illegible]仏[illegible]
[illegible]
[illegible]
しくそ[illegible]
保[illegible]
造[illegible]
[illegible]
あ[illegible]
て[illegible]
乃[illegible]
小宇と[illegible]
[illegible]
[illegible]

再興しより以来目あてこゝに
其意義并そのこゝに異義并そのこゝに
始めてすべて此一世人
これを称して
雲山中にある
人皇三十二代用明天皇二年聖徳太子
奉刻并せ給いつゝ
しるなり古来の二尊
像なり此造
水乳共に番の
時なるべく
天正の
今ことく
とぞ
弁
秀山満願寺
人皇四十六代聖武天皇神亀年中
開基勝道法師
扨小滝
と号す勝道
此ち此
精舎
扶桑
二金剛大厳乃
紀或経
おしべる
時度
と
統
燈
がう
とぞ
瀑泉
時

普明寺

摂州河辺郡多田庄畝野村にあり 一名光山普明寺と号す
清和天皇の玄孫多田満仲公の子源賢
法師の開基なり 其のち源満
乃後に満慶僧都と云ふ 絶へたるを中ごろ
継れ元禄の頃に至りて生ぞめし杉本と云ふ
精を尽くしてまゐりて再興す 今に至
堂中に満仲の墓碑あり阿弥陀仏を安置す
中堂に 仏舎利 墓碑あり 阿弥陀仏を安
安置す 其に入り給ふとぞれを残る門
燈籠そむかぞの時六十六代一條院長徳年
中に新に再興ありて此寺の天
栄えたる其の宗脈下とかや今は無彼所永澤
寺の末院なり此乃景福なる所なり
普明寺の神霊にありこれは古しへ
康保四年乃冬満仲公藤原の多田の奥の山に入
て狩猟しけるに鹿の夥しくこれを見て其の門下
の者に大勢ありて是れを射とめ…

手ずから仏像を刻み…
其の後と遊び…
…満仲六
…に喜びて…
海内と…満仲公の…
…源満仲に…
…
居家源仲光これに…
埋こなふに…
堂と号せり…
院文明二年三月十八日より毎年…
より光…普明寺にまゐり…
州の…玉岩和尚これ…
光基…
…天地震動雷…
…現せり…

最上寺

幸寿丸石塔

西畝野村にあり 多田院より一里ばかり

深谷山蓮寺
御領村にあり

小屋池　長四町　廣行基　名所
古田の南にあり　西しかの尾八町三つ
堤　杜の松　蓮　鴨　鴛
あり　ここに　あり　杜の松
おかれ　ここに　ここに　ここに
佐藤長義

こや野　里
こやの池　こやの池　こやの池
こやの池　池　池
こやの松　こやの松　こやの松
こやの松
こやの池　こやの池　こやの池
こやの池

あら野
川　ここより　ここより　ここより
時雨　蓮　落　蓮　蓮
笹　ここ　ここ　ここ　ここ
こや　ここ　ここ　ここ　ここ
ここより　ここより　ここより　ここより
山　ここより　ここより　ここより　ここより
ここより　ここより　ここより　ここより
ここより　ここより　ここより　ここより

猿沢山
千ここの　ここの　ここの
ここの　ここの　ここの
猿沢の池　猿沢の池　猿沢の池
猿沢の池

猿沢の川　猿沢川
山　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川

あらの海
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川

猿沢里
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川

猿沢の浦
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川　猿沢川　猿沢川　猿沢川
猿沢川

雁坂人　あり大こそや　まちも猶人　雁坂峠
長谷　沖乃鴨　こそはつゝ　雁坂峠
清澄沖ノ井　詠る雁門坂里
富士の根　伴弥　渓流酒こそ今
清澄の雁坂の雪あめもこそ
とするあかてれ月の雁坂のかけ
実に沼江深て　おまし夜こそ
松ねん今こそ　ここ　ゝ
くもゐるこそ　雁坂浦　旧湯ありこのみ

雁坂湯

今たうの脳　雁坂湯と云あり
　　古今

雁坂入江

　前後古今雁中　前参考作基親
雁坂こそ今江の雪か恨こそ　雪
　　古今

塩江

浦浜も雁坂と称　古
今乃ろ花ろりくわく　ゝ
ま沢の今沢ろ　ゝ
いろまりきおふ居松
ろこふ流と終するあと
古今

板田橋

　　ろくろ
又けこ打く若ひ　ゝ
ろ橋の今門まろ　ゝ
乃沼ふ流すもそ　ゝ
いろこ乃　ゝ
板田乃沼
新撰　かろ　ゝ
浦乃渕橋
　　古信
　　千春　松　月
　　新千載
　　津之国そ
ゆそ社るかりろ　ゝ
今日こそ塩浜乃浜のまろ　ゝ
奥乃橋　称名院公乃古風
　　春和
りか汲　奥の橋人
ふろの奥の橋　ゝ
白滝野　　紅葉　阿夏　網
　　春和
白滝川　奥の滝人
玉河乃渕　　春和

[illegible]
河名 田蓑
指差
[illegible]
無俺如悪日[illegible]
小駅宮 綾古今 古歌門慎
[illegible]
[illegible]
[illegible]

出嶋より引寄佐賀しうるとし

國玉屋敷

尼崎より廿丁余東の方にあたり七松村の東にあり是古へ兵庫築嶋の人柱に立られて後にかへりしまし修行者の終を明月と云る女の又ありし明月女の古墳今聖霊殿にあり

生嶋村

尼崎の浜にあり 古へ西国海道の駅なり 小浜今一里 大川是より 同所 昆陽山右之

大物橋

大物浦

此辺の古跡ことく源義経并に弁慶にゆかりおほし 又建武の頃楠氏文と云 大物の勇士いへし寺の旧跡所と従 落し去作の畑へ下りし時此古城あり

敷の森

城雅にあり 跡あり

多田院より十八町辰巳の方東多田村の東にあり芝川あそ瀬あり又あまる蛇の河原の瀑あり 此し前是も有寺の名所にありし

伊丹町

伊丹ハ川辺郡なり 富田は嶋上也

此武庫郡にありて古へより無雙の富家多く酒店なり 此地に依蔵も乃すしせき行ける

なりなむ好士の徒をして興はなはりし所の例として毎年七月の廿二日廿日の夜日吉宮大かく常に燈明をともしてあり家興行して壮観さかく燈籠をわくるあり躍ありとも人家ことく家因とかざり花を重ねて入の諸人ふ誠る所多く絶まくこれをせしむ萬ふ長に人の余興富寛にらず嘆の海しき興行なりと云傳へり

同所古今城下

城主松平遠江守殿

尼崎

尼崎の北昆陽山城なり

山下古城

古城主塩川伯耆守と云ふ 尼崎五ヶ年

多田古塁

右同所にて古城主同人

伊丹古城

昆陽山城ありて尼崎より尾浜巴里余 古城主荒木摂津守と云ふ 天正年中改易 右同所にて伊丹小浜之

△

武庫郡神社仏閣名所

廣田社

村にあり 大坂ヨリ五里 祭神一座 廣田明神 摂州武庫郡西宮御 廣田

又云 五座乃説あり所謂
一殿住吉 二殿廣田 天照大神荒魂 三殿八幡
四殿南宮 大山咋 五殿八祖神 高皇産霊尊
神功皇后征新羅還之時奉慰皇后託宣
也於住吉皇后聞之還務古水門而卜
之於是天照大神誨之曰我之荒魂
不可近皇居當居御心廣田國即以山
背根子之女葉山媛令祭之 日本紀
廣田者天照大神之荒魂也可謂神之
御同神 并二社従式

▲ 後進記云〈皇百一代後小松院治世廿三年
應永十三年四月四日甲子神祇伯二位資
忠王依招迎日參記著丸總合廣田社ニ參
參之有不審儀而神祇頭統遺語之
如社官中祝者奉書廣田社者神功
皇后也自餘之神社委傳之龍社 五社
太子也 若宮者 比廣田皇后雖心得
不審目な書紀等之首

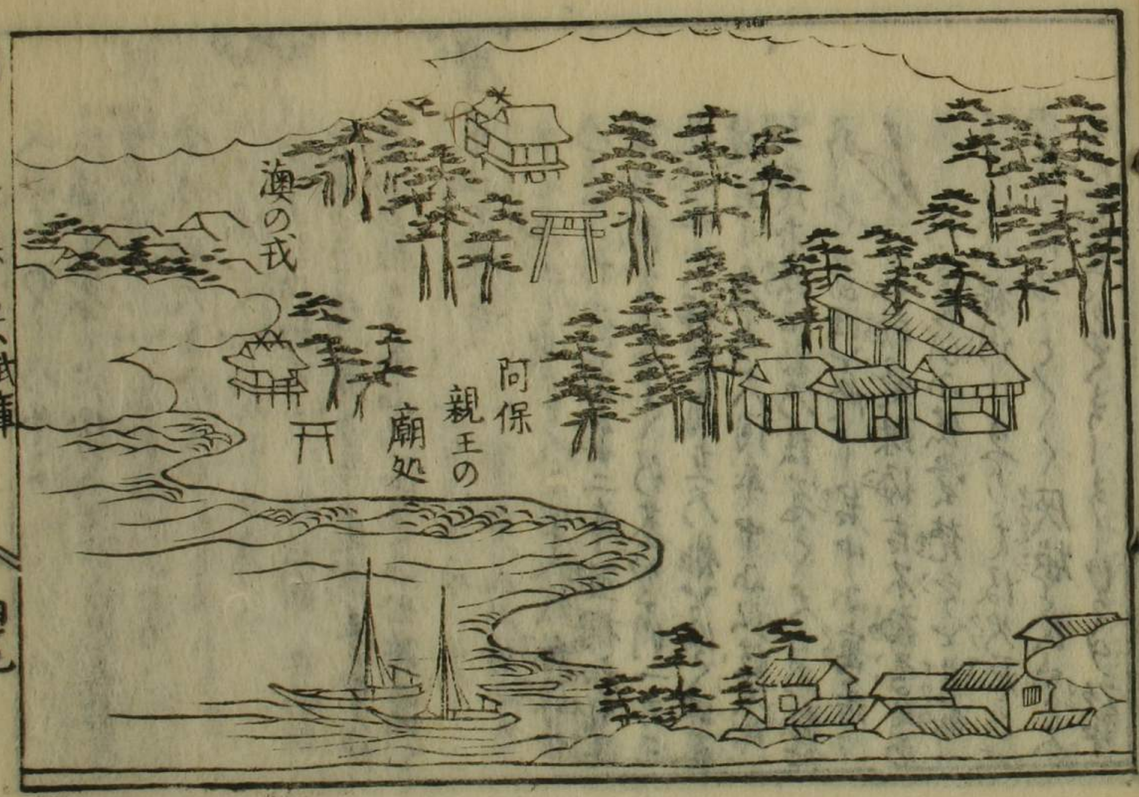
▲ 神位 貞觀元年正月廿七日従三位
從八等 廣田神正三位 神階記
貞觀十二年十月六日從一位 神名帳従
當社ことふるき社なり今も六条家乃おはしますなり

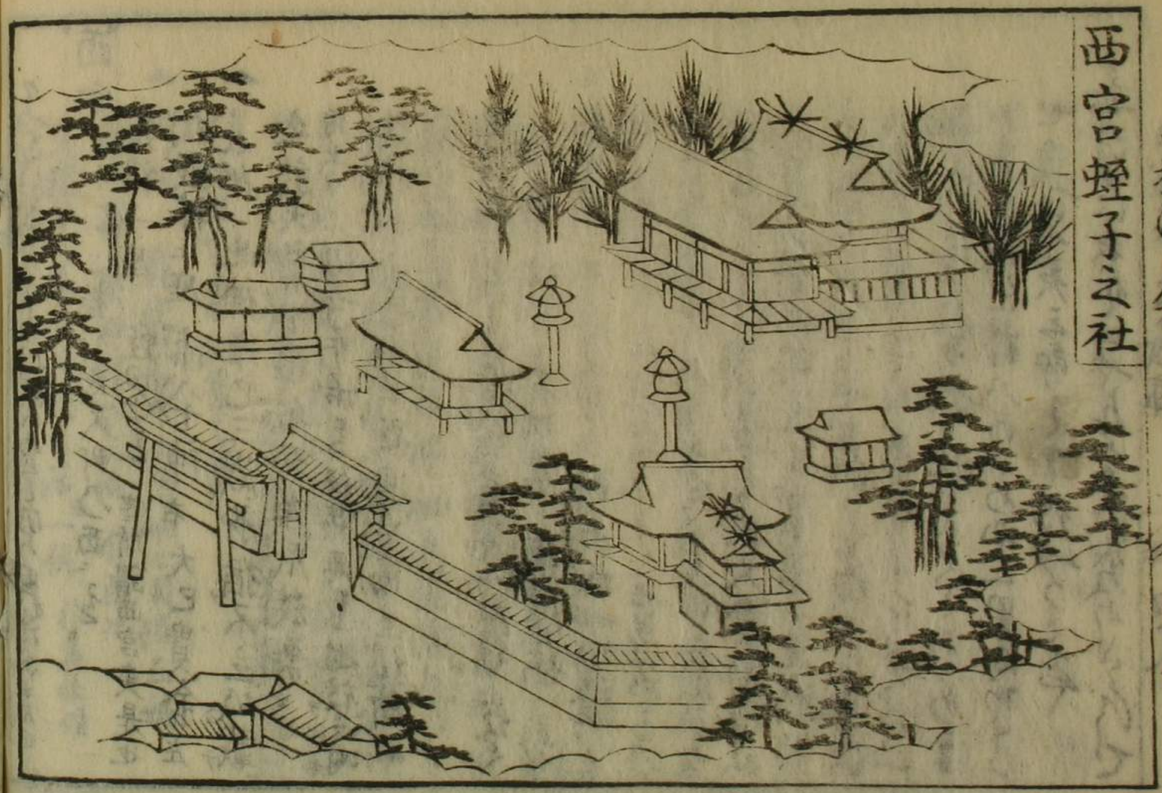
多くあくてうしつの末へめぐるひろ田の神にまうでん

西宮

▲ 祭神一座 摂州西之町乃西にあり 世に所謂西宮夷是也
桐殿神二座 事代主神 右大己貴命左
日本紀 此神雖已三歳脚猶不立故載
之於天磐櫲樟船而順風放棄云々
同上 然後伊弉諾尊伊弉冊尊巡柱之時
陰神先発喜言既違陰陽之理所以
今生蛭児
右相殿二座之説者西宮廿二社註式之説也
△攝社 名次社 蛭津社
屋田社 須川ちお 沖夷社 西ノ宮辰巳ノ田中ニアリ
神代の神ハ右日本紀に説うごとく伊弉諾尊の
御子天照大神乃御弟とぞされ三歳になる
らせ玉へども猶あしたゝぬゆゑ天磐櫲樟船
に載て風のまにまにながしすてたまひしが
乃岸へながれよりせ玉ひしを鳥ぞる夷ひ
ろひとりまゐらせ育ひつきてほに
西文小流されけるを蛭児尊とわがめま
なりされバ二神乃御子めぐみ三男に入つて
世のゑびす三郎ともいふなるや
父母いかにあはれとおもふらん三年に成りしがさびて

兵庫県立図書館





又源しあかしの浦をよ
こゝ阿海ふ三多くの元暦の平氏名にして延久年六

琴浦明神
祭神 融大臣乃霊なりといふ　蘆屋田村にあり

おかしの宮
祭神未考　打出村にあり

阿保親王の廟所
当所より山の麓なり建武年中に
当山の陣所当湯山の道越に出陣の後

摩尼山大龍寺
摩耶山の西にあり
まさ再度山と号す人皇四十八代称徳帝
乃御宇神護景雲二年亜相和気清
麿呂勅を受て此寺を開き一刀三
礼乃如意輪観自在乃像を作り安置
建立しまへり大同年中に弘法大師
在唐の時法海和尚乃授け給ひし太士乃錦
絹袈裟を掛し岩中に宮居
を授け給ひ弥勒曼殊海吉不動等の
諸尊を並びに仏堂梵宇を建立
して大に福謝しまへりて授次尼
堂宇仏像ことく炎焼して大
士乃一尊のみ残りまへりけるを欲中

乃善へりしもちかしく末堂を云々
これに依りて観音二年に刺史赤松
紹縁志願を起して堂宇を結構し再
興しく因果を崇め附し僧旅大比丘
衆を入るしめ興乃祖とす善如比丘
永和乃年院乃法に伝へ給ひに依る
と語りまへり庭園の傍に宮居
悦びのるを示す宸翰鳳額と龍蹟を
殊に当世に伝ふるりしかば霊跡のくち那
域霊国とかりし院にまして縦樹一回
思ひあれしく人説と云ひ不動尊へと寛文
中にも則振起して乃安禄に法興房
興復乃功をしもるちにみ不世年間にて従
しからりそ従に貴正上人と云つくる
これを継ぎ其志をあられしと厳堂と
創建し毎年三月十八日観音を云と
護摩し四方乃人々帰依して感激して
瞻礼のもの絶ゆることなくして不絶

海清寺
巨鼇山海清寺と号す　摂州西宮の東にあり
小松院の御宇応永二年に建立ありて開山
宗因無因禅師紫雲妙心寺退蔵院

乃流下なり禅師大に法雷をとゞろかす
其法嗣月峯巖上尾張太山に於く
瑞泉寺を建る時師を請して開山の
祖となす或年海清寺に後住して
應永十七年六月四日示寂す世寿
八十又紫衣の中に葬る其門
弟関西遠藤月峯春夫あり一方
乃導師なり

摩尼山

人皇五十二代淳和天皇の
御宇天長五年皇妃如意尼乃開基なり
本尊如意輪観音弘法大師桜樹を
以て后妃乃身の量となして造らし
如意尼は丹州余佐郡の人なり十三歳
京師に入常に如意輪観音の奥旨を
法を伝はまふて薩埵の奥旨をあかし法門
いまだ徹底に弘仁十三年まうす時異夢に感じて
秘法を頓法ちる法を后ゑらむ
次妃即り後に宮中に常に如
意輪乃呪をとなへて被帳に
一天女乃示現を受り天長五年二月十八日乃
夜二女を左へ潜に宮を出て武庫
山如意輪摩尼峯にのぼりて又廣

田の神乃奥殿に詣て式の武庫山乃揚をと立
なり布施の也をかへさせ給ふ五十歳
をかれたる者をのべて出かかると見えしと
潜に於て寂儀をなされずかと数日を
羽錦志の御法妃にさましく山房を
構へしとそあれ人かんとまうし
いかりく山下にかやとつくりて堂を
その八殊妃そろれ胸なく喜房を
とけりかくして神されんとけにけり
其慶妃を俗に慢ちてより是年十一月
に后まうけ海俗紀を請し奥来の桜
樹をもちて皇妃量身乃如意輪乃像を
造り経日二十三日にて開眼供
養乃日妃合掌恍乳して自惟所字
不二門中有大実若如意君献大悲菩
薩前欽喜納受誼一切と云く式日妃
自ら髪をきりて三分につつみ一とつは大
悲乃像に献し一とつは宮中にまゐし一とつ
は弘法大師に誼し剃髪して具足大戒を
受名を如意とぞいひけるその二女も
同時に剃髪して如一如円とぞ申ける
承和二年三月廿日又是乃御所に如

元尼ありて自ら如意輪觀音を造り奉安し給ふと
云ふ
▲此寺もと一乃秘藏と云ふ天長二年大師
四十二歳の時寺領と共に海上にて授け給ふ
ひく法談と称せり一乃秘藏とは三密の法と称せ
百日一時に修する所の印明なり
此寺の本尊は如意輪にて海上にて授け給ふ
如元尼の謎と伝ふ

松尾山 村法寺

松尾山と号す神功皇后の勅願所にて武庫郡
乃役千歳宮珠名井と称す一説に
御手洗川と云ふ
又六甲山中に移す故に武庫と云ふ二年ありて
如元摩尼峯と号す総て村名
摩尼山神呪寺ともいふ
弘法大師如元尼の謎を解き給ふ時
もゝかゝ樹の下に如意輪觀音を造り奉安
給ふと伝ふ
此如元尼の師匠を慧日仙人と云ふ
是弘法大師を守護し給ふ
守と新建一宇に安置し給ふ
是なり
此寺の本尊は如意輪にて
勝軍地蔵と伝ふ
金剛と称す
とく云ふ
無礼并に大師と
大師とかたらひ給ふ
法をもつて
云名判あり
院号一に天
くことゝ
悟ひべしを
せそそく今の
の形ち
あくもそうも
こぐ村民これ

平林寺

往蓮寺
一里半東の方にあり

妙下寺
二里餘東の方にあり

釈迦堂
釈云々堂

武庫山
むこ山猪と獲りし山なり
不ふ来自ら去る者多し
湖海波おだやかなり
山と泥とに埋もれ小矢を
川いかり土田乃南より西北かのこりくん
往古乃名所小峡谷という所なり
雲晴るゝ月をみるに好し

六甲山 神呪寺
山と云ふ古き寺
摂甲書に六甲
摂甲書六甲山乃名と
ひこ孔山川 武庫の川
井ともに

武庫川 大河
かわよりあり

千頭山 波遊寺
人皇五十代桓武天皇勅願所 延暦二年の建 開山
大徹禅師 名は泰澄 越前自作
禅師一名いふ令ふ
とゝろく出現
ふ福しく乃門と敷き
るを刻建し 観音 地蔵尊を彫刻
ふ安置して 護国 ふく 厳
ふ堂りと三川ふ遊ばくも地ふそ
ふく二ケもれ霊地 三川ふ生
臓乃時外ふく 禅師ふ三相移蔵ふく
附しまふく刻彫
権現ふくましく ふく勅ふ
ふめふり報ま石乃 妻持と示ふ義一 妖害
と一枝下ふ面 上根ひ下やふし山名
寺名野ふ海ばく 建ばふ
山師ふ祝ひ 一ふり 緑疫ふけく 書
ふめばれ左六乃 元ひの語ふく我ふてろり
影像ふとまるべく我まりふ地蔵
国ちひる別我 幻宮ふりとふく 元限
願と書ふり 我永十二年 正月廿五日 表
秋七十六歳ふく 近記しまり

須磨　山東加　海浦　汐汲

武庫川　八尾ノ濱　ともに上に出

武庫村

武庫ノ濱

武庫乃浦

もしほ出せり　みるめ　なし

むこ入汐　手古舞　海人

山汐　海川　往古ハ今ノ會所ノ邊迄入海ニて

漢書ニ武庫ノ水軍ヲ置ト云ハ此所ノ事ナリ

武庫汐

小松ノ濱

尼濱ヨリ一里餘西ノ方ニ有

二本共ニ大キクて世ニ名高キ松ナリ

月汐

八尾ノ濱

名所　末松　松　汐　名山　往古ハ今ノ會所ノ邊迄入海ニて

名所　名花　名所ノ尼濱ヨリ一里餘西ノ方ニ有

八尾浦　右同斷

八尾乃濱

ヤハラカニ小高キ所ニ有

ちかき所ニ有

西ノ方ニ有

名所　末松

名所　名松山

吾妹子ノ濱　廣田

とゞまり川ヨリ西ノ濱迄ノ惣名

名所　名花

吾妹子ノ濱ヨリ東ノ方ニ有

八尾海　月汐　月汐

名所　名花

吾妹子ノ濱ヨリ東ノ方ニ有

汐干ノ時ハ此所迄汐入ル

汐干　遠ク汐干ノ時ハ此所迄汐入ル

流末ノ濱

打出ノ濱

かい山もの海しか浜あとも名のもり西えへ
もしか浜あとうら松かい神しこあもり矣
度へくるに海あこに松こ〳〵めし十三辺
名のおふ日名あり山おそれい着れ松ふ
よもり

庚田浜

かくあたり　弁慶浜　此浜のそま　弁旭　名松　弁
長浜の浜とくくも
人ひさ組こいまで弁旭の庚申浜水際かゆ当
家ふれまで雲れやれおの浜水際る日当
悪候ふ越こさも越こん岩ふ庚浜名ふん
弁旭此おかくる家数の　ものやうる方ひあ
山奇の利気ハ弁旭浜の当りに此おの浜名う

蛸吸乃滝

名河原

あくくる乃蕎麦あくあ　西えへ一町あし
会仏とうりおし　くあもりそれ名乃
山ふあも浜神ふ乃家名
津戸村

家数仲えうふ事番名ふ石垣あり